

# 子どもの哲学（p4c） ハワイ・みやぎのデータサイエ ンスによる発展的プロジェクト 報告書

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター  
教職員交流を通じた国際比較研究事業

2023年3月15日

国立大学法人 宮城教育大学

p4c スクールリーダー研修チーム運営委員会



Image by University of  
Hawaii





## 事業内容

### (1) 事業立案の背景、実績（研究・調査実績）

\* 事業立案に至った背景、事業テーマに関する研究・調査実績を記述してください。  
背景：平和で民主的な社会形成には、価値観や利害を異にする人々の対等で生産的な対話・議論が必要である。国内外のあらゆる領域で利害対立が先鋭化し、社会的包摂と調和のとれた共生の実現のためには、コミュニティにおける合意形成と意思決定が必要であり、そのための前提として、コミュニティでの対話・議論の資質能力が不可欠となる。

しかし、初等中等学校で児童生徒は、こうした民主的で哲学的な対話・議論の資質能力を磨く機会をどれほど与えられてきたであろうか。そもそも、初等中等学校の教師は、児童生徒を対話・議論させるファシリテーションの理論と実践を学ぶ機会にどれほど恵まれてきたであろうか。社会的包摂と調和のとれた共生の実現のための民主的な対話・議論の本質を理解し、教室で実践するための教員養成や現職教員研修が必要ではないか。答えのない哲学的で現実的な対話を、すぐにでも教室で楽しく安全に取り組まなければならないか。

実績：こうした問題意識のもと、企画提案者たちは、子ども主体の対話を教室で効果的に実現する世界的教育運動「子どもの哲学 (Philosophy for Children)」通称「P4C」の調査を始め、様々な形で世界中に展開している P4C の中でも、ハワイで開発されおよそ 25 年の実績のある p4c ハワイバージョン（その独自性を示すため小文字で「p4c」と称される）の有効性が高いことを見出し、7 年間実践と研究の交流を重ねている。コロナ感染症拡大前は、宮城の教員約 8 名をハワイの学校現場に派遣し、逆にハワイの教員約 8 名を日本の学校現場に迎えるという事業を年 2 回開催してきた実績もある。企画提案者自身、2017 年秋から半年間ハワイ大学の客員研究員として現地の p4c スクールにて実践と研究に携わった。また企画提案者たちは宮城を中心として、各種学校現場での p4c 実践の支援と普及を 7 年間継続している。

この活動の中で、実践現場での p4c の理解と普及のためには、その効果を明示するエビデンスが必要であることを痛感し、教育データサイエンスを導入し、効果量の可視化にも積極的に取り組み、予想以上の成果が出ている。教職大学院を中心に、現職教員にも教育データサイエンスの初歩を指導し、率先してデータ収集・分析・評価し、データをプラットフォームとして同僚教師と連携協働し、エビデンス・ベースドに教育改善できるスクールリーダーの養成に努めている。これらの成果について日本教育方法学会第 57 回大会シンポジウムとして公表した。

主要な発表物は以下のとおりである。

- ・ 田端健人 (2021) 『子どもの言葉データサイエンス入門—jReadability の活用と検証—』パイディア出版.
- ・ 本図愛実編著 (2021) 『グローバル時代のホールスクールマネジメント』ジダイ社.
- ・ M.R. グレゴリー他編、小玉重夫監修、豊田光代・田中伸・田端健人訳者代表 (2020) 『子どものための哲学教育ハンドブック—世界で広がる探究学習—』東京大学出版会.
- ・ 久保順也 (2020) 「p4c を実践する教員から見たその効果と課題」『宮城教育大学教職大学院紀要』第 2 号, 21-28.
- ・ P4c みやぎ出版企画委員会 (2017) 『子どもたちの未来を拓く 探究の対話「p4c」』東京書籍 (田端健人共著) .
- ・ 半沢裕太・田端健人・野坂実央 (2021) 「子どもの哲学対話データサイエンス—中学 1 年生言葉データの定期的な形態素解析による事例研究—」『宮城教育大学教職大学院紀要』第 3 号, 79-93.
- ・ 田端健人 (2020) 「教室での子どもの哲学対話—米国ハワイとみやぎの実践動向—」『教育学研究』第 87 巻第 2 号, 61-68.

## (2) 国際的な状況・日本の先進的、特徴的な取組及び課題等

\* (1) に記述の研究・調査実績等に基づく、事業テーマに関する国際的な潮流の中で、諸外国と共有できる日本の特徴的な取組及びに課題を記述してください。

国際的な状況：子どもの哲学 P4C は 1970 年代に米国のマシュー・リップマンが開発し、北南米、豪州、欧州、アジア、アフリカなど世界中で展開されている。日本は子どもの哲学対話後進国である。その実践と研究の歴史と最前線は、M.R. グレゴリー他編 (2020) に集約されている。日本でも、学習指導要領改訂による「主体的・対話的で深い学び」や「考え議論する道徳」の施策も契機となり、大阪大学や東京大学や立教大学などを中心に、企画提案者たちが p4c ハワイと連携を深めてきた経緯もけん引し、P4C への注目と実践が次第に着実に広まりつつある。

日本の先進的、特徴的な取組及び課題：企画提案者たちの先進的取組は、p4c ハワイ・みやぎバージョンを、データサイエンスし、エビデンス・ベースドに推進する点である。これは世界中の P4C 実践研究で最も弱く乏しかった点の改善である。実践者と研究者のコラボレーションにより、質問紙や言葉データの計画的収集、分析、発信により、p4c の教育効果や学力との相関などを多面的に可視化し、実践した子どもや教師に成長の手ごたえをフィードバックし、導入に躊躇する教師や学校に、判断のための客観的データを提供し普及する取組である。課題としては、数量的データの統計的分析を理解するためには、初歩的な統計的知識の習得が必要であるが、統計は国内外の教育実践者が非常に苦手とする領域であり、抵抗感も大きい。本企画提案はこの課題を世界に先駆けて解決し、日本から、子どもの民主的哲学的対話のデータサイエンスを、日本から発信することである。

## (3) 国内教育機関等との連携・交流実績、計画

\* 初等中等教育機関との連携・交流実績及び今後の計画を具体的に記述してください。

実績：(1) にも記載したように、企画提案者たちは約 7 年にわたり、p4c の実践研究を初等中等教育機関と連携して推進してきた。そのネットワークがある。また教育データサイエンスの先進的研究により、全国学力調査結果などをもとに宮城県内の市町村および埼玉県等の複数の自治体の学力／非認知能力データ分析を支援してきた実績もある。加えて、企画提案者たちは、持続可能な開発のための教育が始まった 2005 年以降、ユネスコスクールや ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムにおいて、地域の学校の ESD、SDGs の実践研究の支援を継続してきた実績を有している。

計画：これまでの実績で培ってきたネットワークを活用する。本企画に関心のある教職大学院現職教員を中心に、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、福島県教育委員会、新潟県教育委員会と連携し、15 名程度の p4c スクールリーダー研修チーム（以下「研修チーム」と略）を結成し、海外交流と調査研究を行う。

具体的には；

① 事前調査：研修チームメンバーの現場で p4c を実施し、児童生徒の対話の言葉データやアンケート調査を行い、スキルアップ以前の p4c データを収集する。研修チームメンバーはデータサイエンス初歩を研修・学習。

② 研修チームは、p4c ハワイの理念と実践を p4c アカデミーの協力により、実践的に体得する。目下、p4c アカデミーは、対面とオンラインのハイブリッド研修を開催しており、その参加を計画。この研修は 3 ヶ月で計画されているが、この研修中もチームメンバーは、可能な限り所属校等で p4c を定期的に継続し、対話データと振り返りシートなどの児童生徒と実践者による事後評価を収集する。

③ p4c アカデミーによる研修終了後、事前から事後にかけてのデータ分析を行い、児童生徒や研修に参加した実践者の変化成長を可視化する。

④ p4c ハワイ研修を主催した p4c アカデミーや p4c ハワイスクールの実践者や研究者に、③のデータ分析をフィードバック、意見交換する。

#### (4) 事業テーマに関して先進的な取組を行う国の教育機関等との連携・交流実績、計画

\* 事業テーマに関して先進的な取組を行う国の教育機関等との連携・交流実績及び今後の計画を具体的に記述してください。

実績：p4c ハワイはハワイ大学 p4c Uehiro Academy for Philosophy and Ethics in Education (以下「p4c アカデミー」と略記)を中心に展開しているが、企画提案者は7年間の密接な交流実績がある。2017年秋には半年間の客員研究員としても協働した。ハワイの p4c 実践教員の訪日実践支援もこのアカデミーとの協働で実施してきた。

2014年～2017年：

- ・6月：約5日間、ハワイの教員6名を宮城県内の小中高校に案内し、日本の児童生徒と p4c を実施
- ・8月：あるいは2月、約5日間、宮城県の小中学校の教員6名をハワイの小中高校に案内し、ハワイの児童生徒たちと p4c の対話に参加。日本での研修やハワイ大学でのフォローアップに協力。
- ・2月：宮城教育大学附属小学校の教員4名が毎年ハワイ大学教育学部で5日間研修

2017年9月～2018年3月：

- ・田端がハワイ大学 p4c アカデミーに研究留学。ハワイ大学での p4c のゼミナールに参加し、ハワイの小中高校で週3～4日 p4c に参加。

2020年～現在：

- ・2021年から月1回のペースでハワイと宮城とをつなぐ Zoom で p4c に参加協力。毎回日本から8名程度、ハワイの教員5名程度が p4c で約90分交流。

今後の計画：社会的包摂と調和のとれた共生の実現のための教育的手法である p4c ハワイへの関心はここ数年世界的に高まっており、世界中からの訪問者が多く、実践現場の負担となっている現実もある。そこで、ハワイ大学 p4c アカデミーが企画する Summer Symposium などの公開研修機会を最大限利用し、p4c スクールリーダー研修チームとハワイの実践者研究者たちとの交流を図り比較教育研究を進める。しかし公開研修機会の受け入れ人数にも限界があるため、ハワイ大学におけるサバティカル研究(田端)の経験とネットワーク、p4c アカデミーとの個人的なネットワークを生かし、小数チームの2回にわたる受け入れを実現する。

#### (5) プロジェクトの内容

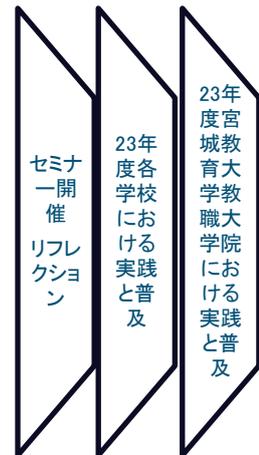
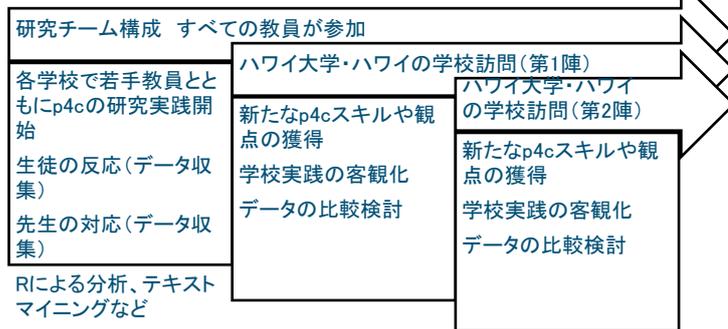
##### ①事前調査

\* 本事業で実施する事前調査について具体的な計画を記述してください。

1. プロジェクト・ホームページ (HP) の立ち上げ：HPには随時進行状況や成果をアップ
2. 研修チームの結成
3. 研修チームによる小中高校での p4c の実施とデータ収集
  - ・児童生徒の対話の録音と文字起こし(対話データ)
  - ・児童生徒による対話の振り返りシート(書き言葉データ)
  - ・対話後の簡易なアンケート(Google フォームによる質問紙調査)
4. 教育データサイエンス初歩の講習の実施

##### ②教職員交流プログラム

\* 本事業で実施する教職員交流プログラムについて具体的な事業計画を記述してください。(海外教育機関における教育実践活動(授業実践等)、海外教育関係者との交流、派遣教職員等による比較研究等)



9月に教員（派遣対象者となる小中高等学校教諭）15名からなる研修チームを構成する。研究チームはp4cを用いた包摂的な学校づくり（若手育成を含む）を研究テーマとし、勤務校で9月～2月までの間にp4cによる校内研修と授業実践を行いデータを数回とる。データ分析はテキストマイニングやRを活用しながら、実践のたびにデータ分析を行う。研究チームは、ハワイの学校でのp4c実践を見学し、自校の取組みを外在化するとともに、新たな視点を獲得。分析したデータについて現地教員と議論する。2月中旬に全体でセミナーを開催して研修のまとめとする。23年度以降、研修の成果を各学校で活用する。宮城教育大学は教職大学院の授業実践に活用するとともに成果の普及に努める。

1. ハワイ大学 p4 アカデミー主催の連続研修（ハイブリットと現地学校訪問）  
 テーマ「社会的包摂と調和のとれた共生の実現のための p4c 研修」

- ・ p4c ハワイのイントロダクション
- ・ モデルスクール訪問（見学だけでなくハワイの児童生徒の対話に研修チームも参加）
- ・ p4c ハワイ「深く考えるツールキット」講習
- ・ リフレクションとアセスメント
- ・ 実践者によるラウンドテーブルによる意見交換
- ・ ハワイにおける現地学校訪問（2グループに分かれて参加）

p4cは「児童生徒が推論方法や議論のスキルを獲得することを目指した教育実践」である。ハワイで研修を行う際には、児童生徒と観察者ともに小グループになり、推論や議論を観察することが最も効果的であるため、研修参加者を2つのグループに分けて派遣することを企画した。

今回の研修では、p4cを用いた包摂的な学校づくり（若手育成を含む）を研究テーマとし、参加者は、勤務校で9月～2月までの間にp4cによる校内研修を行い検証データを取ることができるとを条件とする。ハワイ大学への渡航時期が、いずれの時期であっても、p4cを用いた包摂的な学校づくりという研修事業は、9月～2月の間に継続的に進められる。

2. 事前段階と研修中、研修後のデータ分析

- ・ 事前から事後にかけての変化成長を可視化（語彙の量、質、思考力の深まりを測定・分析）
- ・ 事前事後の効果量を可視化

3. データ分析を p4c ハワイの実践者と研究者にフィードバック

- ・ データを中心とした意見交流会の実施（オンライン）
- ・ ハワイと日本の小中高校での p4c 実践とデータ収集を国際比較し差異の背景を検討
- ・ 両国間の特質にあわせた教育的手法について検討する

5. 事業成果：p4c のプログラム化した講習と p4c 実践の成果にもとづき、2023 年度からの教職大学院の授業で p4c を取り入れた授業実践についての研修を開始する。p4c は学級運営に民主的に生徒の参加を促す。教職大学院学生が、特別活動や教科に p4c を導入することによって生徒の教室コミュニティでの対話・議論の資質能力が育成される。

### ③成果の取りまとめ・活用・普及

\* 本事業で実施する教職員交流プログラムの成果の取りまとめ・活用・普及方法について具体的な計画（成果報告書や提言書の作成・教員研修等の見直し・ホームページ等での公表予定及び成果報告会・学会発表など）を記述してください。

1. 教職員交流プログラムの以下の部分についてプログラム化し活用できるようにする。

- ・教育データサイエンス初歩の講習
- ・p4c ハワイのイントロダクション
- ・p4c ハワイ「深く考えるツールキット」講習

2. 事前段階と研修中、研修後のデータ分析については、報告書を作成する。

- ・ハワイと日本の生徒の変化成長を国際比較し差異の背景を検討
- ・両国間の特質にあわせた指導技法について検討する

また、成果を踏まえて 2023 年度に学会発表を行う。（日本教育学会、日本比較教育学会、日本教育方法学会などを予定している）

以上 1・2 の成果についてはホームページにおいて公開し、活用を促す。

3. 事業成果について：本事業では、研修に参加する教員が、研修を受けながら各自の学級で p4c の活用をすすめる。特別活動や教科において P4c を活用することによって児童生徒の思考力や判断力を深められたかどうかの成果を検証する。次に上述のプログラム化した講習の内容について、2023 年度からの現職教育（教職大学院）の授業で活用する。合わせて仙台市、宮城県、福島県教育委員会や、そのほかの教育委員会でも広く活用できるように普及展開を進める。

### 研修日程

2022/10/29	10:00-15:00	p4cHI Lesson Study Seminar(Zoom Session)
2022/10/31	8:20	Arrive at Waikiki Elementary
	8:30-9:30	Waikiki School Halloween parade
	10-10:40	Join Nannette Ganotisi and Emiko George for their sessions with students (visiting teachers can lead activities)
	13:15-16:00	Join Nannette Ganotisi and Emiko George for their sessions with students (visiting teachers can lead activities).
	16:00-17:30	Join Dr. J's PHIL 492 class at UHM
2022/11/1	8:00-12:00	Meeting/Discussion at UH Uehiro Academy
2022/11/2	8:00	Arrive at Waikiki Elementary, meeting with Principal
	8:00-9:40	Split into three groups to participate in p4c sessions:
		Group A visits Ms. Amy Wada (4th gr)
		Group B visits Ms. Jolyn Ikeda (2nd gr)
		Group C visits Mr. Julian Walstrom (4th gr)
		Recess
	10:00-11:45	Split into three groups to participate in p4c sessions:
		Group A visits Ms. Ann Suphan (2nd grade)
		Group B visits Ms. Ann Davis (1st gr)
		Group C visits Staci Fong (2nd gr)
		Lunch and reflection time
		Split into three groups to participate in p4c sessions:
	12:30-13:15	Group A visits Mr. Jason Marvel (5th gr)
		Group B visits Ms. Courtney Tawata/Ms. Jenna Kunihiro (5th gr)
		Group C visits Mr. Matt Lawrence (5th gr)
		Informal Debrief with teachers who do not have Parent Teacher Conferences
	16:00	Leave Waikiki School
	16:10-18:00	Join Dr. J's PHIL 492 Class at UHM
2022/11/3	8:15-12:00	Arrive at Ka'elepulu Elementary School
	8:30	Split into three groups to participate in p4c sessions:
		Group A visits Ms. Paige Banninger (5th gr)
		Group B visits Ms. Makenzie Carpenter (4th gr)
		Group C visits Ms. Stephanie Taira (2nd gr)
		Recess and reflection with teachers
		Free for lunch and reflection
	12:45	Arrive at Kailua High School
	12:55-17:00	Join Ms. Kelley Espinda for p4c session (Japanese Language and Culture)
		Possible reflection time with teachers/Free
	18:00	Possible beach potluck at Queen's Beach

研修参加者（10月29日～11月3日）

Name	Affiliation
田端健人 Taketo Tabata	MUE Professor
市瀬智紀 Tomonori Ichinose	MUE Professor
久保順也 Junya Kubo	MUE Professor
信太昭伸 Akinobu Shida	MUE Associate Professor
佐々木孝徳 Takanori Sasaki	MUE Associate Professor
丸山千佳子 Chikako Maruyama	MUE Professor
石井恵子 Keiko Ishii	Elementary School Teacher/ Graduate Student of MUE
武山幸一郎 Koichiro Takeyama	Elementary School Teacher/ Graduate Student of MUE
日野大治 Daiji Hino	High School Teacher/ Graduate Student of MUE
板垣英恵 Hanae Itagaki	Elementary School Teacher/ Graduate Student of MUE
保科優子 Yuko Hoshina	Elementary School Teacher/ Graduate Student of MUE
小野寺留菜 Runa Onodera	Nursing Teacher at a Special Support School/ Graduate Student of MUE
鈴木由佳 Yuka Suzuki	Elementary School Teacher/ Graduate Student of MUE
星健太郎 Kentaro Hoshi	Elementary School Teacher/ Shiroishi City board of Education

ハワイ大学およびハワイの学校の研修担当者

Dr. Benjamine Lukey	UHM, Director	Principle and Method of p4c On line Lecture
Dr. Benjamine Lukey	UHM, Director	p4c, Reflection and Guidance
Dr. Thomas Jackson	UHM, Chief Director	p4c, Reflection and Guidance
Dr. Thomas Yos	UHM, Director	p5c, Reflection and Guidance
Dr. Chad Miller	UHM, Director	p6c, Reflection and Guidance
Lyan Kusuda	Waikiki Elementary School, Principal	Explanation of p4c at Wikiki ES and Guide
Jenna Kunihiro	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity
Nanette Ganotisi	Waikiki Elementary School, Teacher	p4c and Reflection
Emiko George	Waikiki Elementary School, Teacher	p4c and Reflection
Dr. Thomas Jackson	UHM, Chief Director	p4c Seminar
Dr. Benjamine Lukey	UHM, Director	p4c Discussion
Dr. Chad Miller	UHM, Director	p4c Discussion
Dr. Amber Makaiau	UHM, Director	p4c Discussion
Dr. Thomas Yos	UHM, Director	p4c Discussion
Dr. Jackson	UHM, Director	p4c Discussion
Dr. Chad Miller	UHM, Director	p4c, Reflection and Exlanation
Dr. Yos	UHM, Director	p5c, Reflection and Exlanation
Dr. Benjamin	UHM, Director	p4c, Reflection and Exlanation
Dr. Jackson	UHM, Director	p4c, Reflection and Exlanation
Amy Wada	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Jolyn Ikeda	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Julian Walstrom	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Ann Suphan	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Ann Davis	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Staci Fong	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Jason Marvel	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Courtney Tawata	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Jenna Kunihiro	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection
Matt Lawrence	Waikiki Elementary School, Teacher	School Activity, p4c and Reflection

Nannette Ganotisi	Waikiki Elementary School, Teacher	afterschool seminar
Ryan Kusuda	Waikiki School Principal	afterschool seminar
Dolly Bahn	Waikiki School Parent-School Coordinator	afterschool seminar
Whitney Mahoney	Waikiki School Vice Principal	afterschool seminar
Michael Ragasa	Waikiki Elementary School, Teacher	afterschool seminar
Lory Peroff	Waikiki Elementary School, Teacher	afterschool seminar
Dr. Jackson	UHM, Director	p4c Seminar
Dr. Chad	UHM, Director	p4c, Reflection and Exlanation
Dr. Benjamin	UHM, Director	p4c, Reflection and Exlanation
Dr. Jackson	UHM, Director	p4c, Reflection and Exlanation
Paige Banninger	Ka'elepulu Elementary, Teacher	p4c and Reflection
Makenzie Carpenter	Ka'elepulu Elementary, Teacher	p4c, Reflection and Exlanation
Stephanie Taira	Ka'elepulu Elementary, Teacher	p4c and Reflection
Kelley Espinda	Kailua High School, Teacher	p4c, Reflection and Exlanation
Dr. Chad	UHM, Director	Reflection and Discussion on p4c
Dr. Benjamin	UHM, Director	Reflection and Discussion on p4c
Dr. Amber	UHM, Director	Reflection and Discussion on p4c
Dr. Thomas Yos	UHM, Director	Reflection and Discussion on p4c
Dr. Jackson	UHM, Director	Reflection and Discussion on p4c
Amy Wada	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Jolyn Ikeda	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Julian Walstrom	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Ann Suphan	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Ann Davis	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Staci Fong	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Jason Marvel	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Courtney Tawata	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Jenna Kunihiro	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c
Matt Lawrence	Waikiki Elementary School, Teacher	Reflection and Discussion on p4c

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/10/31（月） 8：20 - 9：30	場所：学年：おおよその人数  ワイキキ小学校：全学年：約 500 名	記録手担当氏名：  鈴木 由佳
テーマ ハロウィンパレード		
活動概要 全学年の児童が、ハロウィンの仮装に扮し、校内からクラスごとに並んで出てきた。校庭を丸く囲んだ後、校内に戻っていくといったパレードだった。児童は思い思いの仮装をしており、それぞれの個性を表していた。血まみれや骸骨といったおどろおどろしい仮装というよりは、何かのキャラクターや、動物や物など、可愛らしい仮装が多かった。鬼滅の刃や、スーパーマリオなど、日本のキャラクターも多かった。また、校長先生を初め、先生方や保護者も仮装をしていた。		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと どの子も笑顔にあふれ、とても生き生きとしていた。また子どもだけでなく、大人もとても楽しそうだった。私自身、仮装に対する興味があまりなく、ハロウィンの盛り上がりに対してこれまで懐疑的だったのだが、これだけ爽やかで楽しいハロウィンならとてもいいものだと感じた。日本でよく見られる、おぞましい仮装がなかったことも一因かもしれない。日本では、全ての教育活動においてねらいが定められているが、このハロウィンパレードのねらいや意図はどのようなものなのだろうかということが気になった。 また、よく見てみると、仮装をしていない児童が数人いた。家庭の事情などもあるのだろうが、その子らに対する配慮などもどのように行われているのだろうかということも気になった。 総じて、ハワイの人たちの陽気さや温かさが感じられるパレードだった。終わった後に教室や校庭でそれぞれお菓子を食べている姿を日本の児童が見たら、とてもうらやましがらうとも感じた。自由で伸び伸びとした雰囲気、日本では見られない様子に驚くと同時に、日本の学校の窮屈さについて改めて考えさせられた。  ・ 8時20分からのハロウィンパレードだったが、たくさんの保護者が集まっていた。子供の送迎も同様に、子供優先ということへの社会全体の理解があると感じた。以前、担任をしていた時に、仮装する服をカラービニール袋で作って写真撮影会をしたり、仮装鬼ごっこをしたりしたが、そのような時間を子供だけでなく自分自身も楽しんでいたことを思い出した。日本でも「教師自身も楽しむ」ということが大事かもしれないと感じた。（板垣） ・ ハロウィンが子供たちや保護者、教職員にとってどんな位置付けなのか、どんな意味があるのかを聴いてみたいと思った。日本で取り組むときに、他の国の人々の声を聞く機会や知る機会を作りたいと思った。（石井） ・ 個人的には日本のアニメは世界に広がっているのだなということを強く実感した。たくさんの保護者、特に父親の姿も多く見られ、家族でハロウィンパレードを楽しみにしている様子が窺えた。また、校舎内を周り、校庭に集合するだけという無理のないイベントに感じられた。日本だと、子どもの代表の言葉など、どうしても大人の都合のイベント化してしまうように思う。（武山）		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/10/31（月） 10：00 - 10：40	場所：学年：おおよその人数  ワイキキ幼稚園：4,5 歳児：約 25 名	記録主担当氏名：  武山 幸一郎
テーマ：自己紹介とワイキキ小学校の校歌を紹介		
対話・活動概要： ※円座となり，p4c コミュニティボールを使って以下の活動を実施した。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介（好きな○○）</li> <li>・日本語を知っている子どもが日本語で挨拶</li> <li>・出身を尋ね，一人一人の子どものアイデンティティの承認</li> <li>・p4c の問いを考える</li> <li>・マインドフル（思いやり）の精神を再確認</li> <li>・ワイキキ小学校の校歌（踊り付き）を紹介</li> </ul>		
<p>私にとって印象的だったこと、私が学んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が「日本語を知っている人？」と子どもに尋ねたところ，6名ほどの子どもが挙手をし，コミュニティボールを回しながら「ありがとう」「こんにちは」等の日本語で挨拶をした。一人一人が活躍できる場を作っていると感じた。また，「韓国出身の人？中国出身の人？ハワイ出身の人？」と出身を尋ね，日本だけでなく全ての子どもたちのアイデンティティを認めながら，活躍できる場を作っていたことが印象的であった。韓国出身の子どもは英語の後に韓国語でも自己紹介をして，皆から拍手をもらった。大変満足した表情であった。多様な社会の中で生きていく子どもたちが自分のアイデンティティに誇りを持つことができるような教師の働き掛けだと感じた。</li> <li>・自己紹介で「好きな○○」を話したときに，ワイキキ小学校が好きと述べた子どもが数人おり，学校への愛着心を感じた。最後に校歌を歌ったときも全員が自分たちの学校に誇りを感じているようにうかがえた。子どもたちの優しく温かく，楽しそうな表情で歌って踊る姿から，学校目標の[Mindful]を感じる事ができた。</li> <li>・自己紹介で好きなものを伝えるときに「My favorite ○○ is」という型を示しており，幼稚園という発達段階に合わせて話の仕方をきちんと教えていると感じた。話し方もゆっくり，はっきり話すように声掛けし，言い方が分からずに困っている子どもには「My favorite」まで言ってあげて話しやすいように手助けをしていた。教師が子どもの発達に合わせて話の手本となるように話すことが大切だと改めて学んだ。</li> <li>・子どもの発達段階に合わせて集中が続くように聴く活動や表現活動を上手に取り入れる中で p4c の精神もきちんと伝えていた。また，一週間を振り返り，相手に対する思いやりの気持ちも持てたかどうかを尋ねて学校目標を意識する場面を作っていた。これらのことから，幼少期からの小さな積み重ねが大切であると実感した。</li> <li>・教師は規律やモラル，思いやりの精神などをきちんと教えていた。一人一人が落ち着いて話を聴き，考えている様子がうかがえた。足音を立てている子どもに教師は注意を促したり，他の子どもが話しているときは聞くということをきちんと伝えたりして，話を聴くことの大切さを普段から教えていると思った。</li> <li>・学校目標の「Mindful」を一人一人の先生が意識しており，授業の中で振り返る場面を意図的に作っていた。先生方が自分事として意識するために，教職員同士で心掛けていることがあるのか知りたいと思った。（石井）</li> </ul>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/10/31（月曜日） 10:00 - 10:40	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：幼稚園：12名	記録主担当氏名：板垣英恵 参観者：市瀬，田端，小野寺，鈴木，保科，板垣
テーマ：※p4cの場合は問い 幼稚園児とのセッション（visiting teachersの主導でアクティビティを）		
対話・活動概要： <p>1 sing a song ~Hello~（Emiko Georgeのリードで）                  落ち着いて話を聞けるクラスの雰囲気に合わせて Emiko 先生の優しい歌声で始まり、一気に子供たちを引き込んだ。</p> <p>2 self-introduction（幼稚園児と visiting teachers）                  自己紹介は、「My name is～」のみであったが、幼稚園児には難しそうであった。しかし、Emiko のサポートでどの子供も自己紹介をすることができた。</p> <p>3 アクティビティ（①～③は visiting teachers，④は Emiko がリード）                  ①ジャンケン列車                  ②なべなべ底抜け                  ③アルプス一万尺                  ④ 1・2・3・4 At the same tempo                  （同じリズムで手を叩きながら、順番に1・2・3・4を言う）</p> <p>4 sing a song ~Good bye~（Emiko Georgeのリードで）                  また静かな雰囲気ですべての歌を歌い、授業は終了した。                  40分の中で、静と動のメリハリのある授業展開であった。</p>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと アクティビティでは、私たちの片言の英語での説明だったが、動きをやって見せるとすぐに理解し、立ち上がってやり始める子供がいた。手本を見せる、実際にやって見せるという手立ての有効性を改めて認識した。また、何とか必死に伝えようとする気持ちもコミュニケーションでは大切だと感じた。 ④のアクティビティは、しっかりと聞く態度、相手を思いやる、協調性など様々な要素を含んだものだった。友達の <b>crap</b> を待つことができた子供を Emiko 先生が最後に全体の前で褒めていた指導も効果的で、このような指導の積み重ねがセーフティな場を作り上げていくのだと思った。  先生の温かな雰囲気、優しい歌声が印象的で、子供たちが先生を大好きな気持ちが伝わってきた。みんなが輪になって座り、時間を共有することで、その場にいることの安らぎ、みんなに認められている安心感などを無意識ながらも子供たちは感じ取れているような気がした。この土台が p 4 cにつながっていくのだと感じた。（鈴木） 同じリズムで順番に1・2・3・4を言うことが、幼児にとってこれほどまで難しく感じるということは意外だった。「規則正しく」「整列」を昔から教育してきた日本人の子どもたちの方が、もしかしたら得意なのかもしれないと思った。（保科）		

### ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/10/31（月曜日） 10:00 -10:40	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：5 歳児クラス ：ヒリナ先生と 5 歳児 20 名	記録主担当氏名：  佐々木孝徳
テーマ： ※p4c の場合は問い	※p4c は実施せず	
対話・活動概要：生活科（屋外植物観察等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のはじめに、学年園の入り口で円座になり植物の芽を摘まない、踏まないなどの約束の確認を行った。その後、学年園で育てられている植物について、教師がそれらの由来について説明しながら園児と共に学年園を散策していた。</li> <li>・授業の後半は、教師と園児が園庭で円座になって座り、日本でいうハンカチ落としを行って遊び、皆でハロウィン（パレードの続き）を楽しむ姿が見られた。</li> </ul>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本でいう小学 1 年生にも満たない園児たちが学年園の植物観察に意欲的に参加する姿が見られた。また、散策中は教師を先頭に園児たちを挟むように私たち参観者 4 名と通訳 1 名のゲストが最後尾に 1 列になって散策したが、最後まで集中力を切らさずに授業に参加する姿勢がすばらしかった。</li> <li>・（信太） 日本の生活科の学習に似ていると感じた。学習後に遊びを入れて子どもの集中力を切らないように指導するところは、日本のスタイルとの共通点を感じる。</li> <li>・ハワイの文化について学ぶ授業であった。この日は、校庭の菜園に植えてあるタロイモ等を観察しながら、そのハワイ名を先生が教えていた。通訳のシェリーさんによると、ハワイの文化や言葉を教える授業はハワイ各地の学校で行われており、一部では全てハワイ語で教える学校もあるとのこと。逆に言えば、このような努力をしないとハワイの文化が失われるということでもあると感じた。授業最後のハンカチ落としでは、鬼が逆回りに走ったり複数になったりと柔軟なルール。コンクリートの上をビーチサンダルで走り回っている様子を見て、転んでけがをしたらどうするのだろうと我々は考えたが、そのへんもハワイの大きかさか。（久保）。</li> </ul>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/10/31（曜日） 10:45 - 12:30	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：4年生：約12名	記録主担当：石井恵子 参観者：丸山，日野 武山
テーマ：日本の遊び		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介（ハロウィンで好きなお菓子）</li> <li>2 歌を歌う準備としてストレッチを中心とした上半身の運動</li> <li>3 授業の最初「Hello Song」と最後「Good bye Song」に歌唱</li> <li>4 日本の教師たちによる日本の遊びの紹介と活動                      （なべなべそこぬけ・じゃんけん列車・はないちもんめ）</li> </ol>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最初と最後に歌を取り入れ、めりはりのある授業が展開されていた。日本と同じように子どもに見通しを持たせて授業を展開していると感じた。</li> <li>・私たちが日本の遊びを紹介すると伝えると子どもたちは喜びの声を挙げた。しかし、すぐに静かになり説明を聴いた。そして、日本の教師たちがデモンストレーションと共に説明をしたところ、すぐに理解してスムーズに活動ができた。普段から話を聴くことを大切にしていることが伝わってきた。</li> <li>・「なべなべそこぬけ」を通して、子どもたちは成功体験を味わうことができた。これは教師の働き掛けが大きいと感じた。最初は、うまく体をくぐらせることができずに腕が絡まる子どもたちに対して、教師はただ見ているだけで手出しをすることはなかった。しばらく子どもたちが挑戦して失敗しているうちに「もっとやりたい」という声が出てきた。その声が出て初めて、教師は手助けをした。子どもたちの意欲を引き出し、成功体験を味わわせるために子どもたちの失敗体験は大切であると感じた。</li> <li>・「じゃんけん列車」の2回目のときに、じゃんけんの相手がいない子どもがいた。他の子どもたちは既にじゃんけんをしており、前の人の肩に両手をのせて待っている。そのときも教師は誰かとじゃんけんをするように指示を出すことはなかった。子どもがどうするか自分で考えるまで待っていた。他の子どもたちも何も言わずに待っていた。自分で考えることを大切にしていることがうかがえる瞬間であった。</li> <li>・「はないちもんめ」で、2つのグループに分かれるときに男の子たちがくっついて少しふざけた。そのときに教師は「ナンセンスだ」と注意を促した。子どもたちが自分で考えるときには口を出さず、じっと見守っている教師であったが、規律を守ることに対しては、素早く反応して注意を促していた点に驚いた。</li> <li>・「はないちもんめ」で、事前に同じ子どもばかりを選ばないように指示をするかどうかで悩んだが特に留意点については説明しなかった。すると、同じ子どもが名前を呼ばれることはあったが、まだ呼ばれていない子どもがいると自然と全員の子どものを呼ぶように配慮する様子がうかがえた。敢えて教師が指示を出さないことで、子どもたち自身に考えさせるという選択肢もあることを学んだ。</li> <li>・日本の遊びがこんなにもハワイの子どもたちにハマるとは思わなかった。特にじゃんけん列車はこれからワイキキ小学校でやり続けるのではないだろうか。これをきっかけにハワイの小学校に広がるかもしれない。意外と日本の遊びは知られていないのだと感じた。（武山）</li> </ul>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/10/31（曜日） 10:45 - 12:30	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：4年生：約12名	記録主担当：石井恵子 参観者：丸山，日野 武山
テーマ：日本の遊び		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介（ハロウィンで好きなお菓子）</li> <li>2 歌を歌う準備としてストレッチを中心とした上半身の運動</li> <li>3 授業の最初「Hello Song」と最後「Good bye Song」に歌唱</li> <li>4 日本の教師たちによる日本の遊びの紹介と活動                      （なべなべそこぬけ・じゃんけん列車・はないちもんめ）</li> </ol>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最初と最後に歌を取り入れ、めりはりのある授業が展開されていた。日本と同じように子どもに見通しを持たせて授業を展開していると感じた。</li> <li>・私たちが日本の遊びを紹介すると伝えると子どもたちは喜びの声を挙げた。しかし、すぐに静かになり説明を聴いた。そして、日本の教師たちがデモンストレーションと共に説明をしたところ、すぐに理解してスムーズに活動ができた。普段から話を聴くことを大切にしていることが伝わってきた。</li> <li>・「なべなべそこぬけ」を通して、子どもたちは成功体験を味わうことができた。これは教師の働き掛けが大きいと感じた。最初は、うまく体をくぐらせることができずに腕が絡まる子どもたちに対して、教師はただ見ているだけで手出しをすることはなかった。しばらく子どもたちが挑戦して失敗しているうちに「もっとやりたい」という声が出てきた。その声が出て初めて、教師は手助けをした。子どもたちの意欲を引き出し、成功体験を味わわせるために子どもたちの失敗体験は大切であると感じた。</li> <li>・「じゃんけん列車」の2回目のときに、じゃんけんの相手がいない子どもがいた。他の子どもたちは既にじゃんけんをしており、前の人の肩に両手をのせて待っている。そのときも教師は誰かとじゃんけんをするように指示を出すことはなかった。子どもがどうするか自分で考えるまで待っていた。他の子どもたちも何も言わずに待っていた。自分で考えることを大切にしていることがうかがえる瞬間であった。</li> <li>・「はないちもんめ」で、2つのグループに分かれるときに男の子たちがくっついて少しふざけた。そのときに教師は「ナンセンスだ」と注意を促した。子どもたちが自分で考えるときには口を出さず、じっと見守っている教師であったが、規律を守ることに対しては、素早く反応して注意を促していた点に驚いた。</li> <li>・「はないちもんめ」で、事前に同じ子どもばかりを選ばないように指示をするかどうかで悩んだが特に留意点については説明しなかった。すると、同じ子どもが名前を呼ばれることはあったが、まだ呼ばれていない子どもがいると自然と全員の子どものを呼ぶように配慮する様子がうかがえた。敢えて教師が指示を出さないことで、子どもたち自身に考えさせるという選択肢もあることを学んだ。</li> <li>・日本の遊びがこんなにもハワイの子どもたちにハマるとは思わなかった。特にじゃんけん列車はこれからワイキキ小学校でやり続けるのではないだろうか。これをきっかけにハワイの小学校に広がるかもしれない。意外と日本の遊びは知られていないのだと感じた。（武山）</li> </ul>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/10/31（月曜日） 12：30 - 1：10	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：4 学年：24 名	記録主担当氏名：板垣英恵 参観者：市瀬，田端，久保，星，信太，佐々木，小野寺，鈴木，保科，板垣
<p>テーマ：※p4c の場合は問い Mindfulness を 50% から 100% にする（近づける）ためにはどうすればよいか。</p>		
<p>対話・活動概要：</p> <p>Nannette 先生の「p4c では、何を考えるかではなく、どのように考えるかが大事だ」という話から授業が始まった。</p> <p>次に p4c ルール（Example, True, Why, Wonder 等）を確認した。</p> <p>その後、自分自身の mindfulness の割合を、0%，50%，100% で挙手させた後、「クラスの mindfulness はどうか」と問うた。自分自身よりクラスの mindfulness の割合が低いと感じている児童が多いことを全体で共有した後、Nannette 先生から本時の問いが提示された。子供たちからは、以下のような考えが出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく聞くこと</li> <li>・その人のことを考える</li> <li>・反対しない</li> <li>・尊敬し合う</li> <li>・有言実行</li> <li>・静かに話を聞く</li> <li>・悪口を言わない</li> <li>・気持ちに気付く</li> <li>・一生懸命に聞く</li> </ul> <p>途中には、ペアでフリートークの時間や、mindfulness が 100% だと思う級友を指差す場面があった。最後にリフレクションを行い、授業は終了した。</p>		
<p>私にとって印象的だったこと、私が学んだこと</p> <p>p4c は How を考えること、学び方を学ぶことを大事にしているということ、授業最初の Nannette 先生の言葉から感じた。また、今回の問いを通して、「人とのコミュニケーション、人との接し方」と、「思考する、探究する」という p4c の 2 つの側面を感じる事ができた。</p> <p>p4c のやり方には個々の先生の個性が発揮されており、Nannette 先生の p4c には、オリジナルの教具としてじょうろを使ったり、身体表現を取り入れたりしていた。子供たちが種になり、先生がじょうろで水をかける仕草をすると、少しずつ種が成長していくことを表現していた。それぞれが自由に表現することを楽しめるセーフティな場であることを実感した。それは、児童と先生という立場ではなく、一緒に考え、一緒に楽しむ「We（私たち）」を大事にしていることの表れだと感じた。</p> <p>（信太）</p> <p>p4c の基本的な行い方に、クラスオリジナルの要素（じょうろ）を取り入れながら話し合いを行っていた。子どもたちもそのやり方に慣れていて、安心・安全な雰囲気が一層向上していた。</p> <p>・Nannett 先生が一人一人の子どもたちの背中や頭にじょうろで水をかけると、子どもたちが立ち上がって成長するジェスチャーをしていたのが印象的。英語を母語としない児童も半数いるクラスもあることで、こうした非言語的表現も子どもたちの助けになっていると感じた（久保）。</p> <p>机の下に入るなどあまり前向きでない児童がいたが、先生が呼びかけたり、身体表現を取り入れたりすることで、次第に場にとけこんでいた。日本でも p4c に限った話ではないが、必ず同様の児童らがいるとも考えられる。「セーフティ」が作り出す影響の大きさを目の当たりにさせられたような気がする。（鈴木）</p>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/1（火） 9:30～11:30	場所：学年：おおよその人数 場所：ハワイ大学 学年： 人数：18名	記録主担当氏名： 保科優子
テーマ：※p4cの場合は問い p4cの効果		
対話・活動概要：		
1.自己紹介 ①名前②仕事③今週の研修で学びたいこと		
2.Dr.Jの講話		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが happy,先生が happy だったらよい。そういう姿を子どもたちに見せなければならない。</li> <li>・p4cは先生と生徒ではなく、「we」がサークルを作って行う。</li> <li>・日本の学生が数学世界No. 1なのはなぜなのか知りたい。アメリカの生徒は数学的に考えることが苦手である。公式が使えないときにどうするかを考えることができない。</li> <li>・学問の根幹が危機に陥ったときにどうするかを p4c で考えたい。答えはない。不確実性（uncertainty）について話し合うのが p4c である。</li> </ul>		
（トビさんの話）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・p4cは雰囲気大事である。人と人の接し方、伝え方を練習することができる。おのずと人との接し方を覚えてくるのだ。</li> <li>・我々は、生徒の未来についての手伝いをしたいと思っているが、子どもたちは今何とかしてほしいと願っている。その時、p4cは未来だけではなく、今のことに集中でき、子どもの心的回復力（mental resilience）を高めることにつながる。</li> </ul>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと		
従来の、先生から生徒に一方的に教えるというやり方を変えたいという願いから、p4cは生み出された。ゆえにp4cの基本は、「先生」と「生徒」ではなく、「私たち」つまり「together」であることが大事であるというDr. Jの言葉を常に意識して、今後のp4cの実践を参観しようと思った。また、それぞれのアプローチの仕方は違って、子どもがhappyであることと同時に先生もhappyであればよいという言葉に、これまでの自分の教員人生を思い出し、いつどんな場面でもどのようなアプローチしてきたのかを振り返る時間となった。日本は学生の数学の成績がNo. 1であるが、どうやって数学を教えているのか、なぜ成績が良いのかを教えてもらいたいというDr. Jの疑問に、自分なりに考えた。しかし、外国に行っても他の国の学生よりも日本人は英語が話せない。その現実を考えると、数学ができるというのは何の自慢にもならないと思った。		
トビーの「p4cは言葉みたいなもの。子どもたちはそれを使って思考することを学び、それを使ってコミュニケーションを学ぶ」という言葉に納得。（久保）		
これまで、子供を「happy」にすることをたくさん考えてきたつもりだが、自分自身（教師）の「happy」な姿を子供に見せることはあまり意識できていなかったような気がする。子供と教師が「we」となって一緒に考えるということが、どんな影響があるのかもっと知りたいと思った。（鈴木）		
p4cを通して、一緒に共存するための方法を学び、一緒に笑い深く考える場所を作り、自分の中にある「心的回復力」を高めていくことを学んだ。様々な家庭環境に置かれた子供たちに対して、それとは全		

---

く別のセーフティーな環境を作って集団の中で個を育てるところに、p4cの魅力がある。(板垣)

教師と子ども、教師同士の関係においても「We」の視点を持って共に学び合う関係でありたいと思った。(石井)

日本は数学 NO1 という言葉。一つに基礎基本の習熟において、日本独自の問いをもたせる問題解決学習がその秘密であると思うが、ハワイでいう Happy を求めずに数学を詰め込んでいる側面もある。どちらがウエイトが大きいのか...考えさせられる言葉だった。(武山)

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/1（火） 9:30～11:30	場所：学年：おおよその人数 場所：ハワイ大学 学年： 人数：18名	記録主担当氏名： 保科優子
テーマ：※p4cの場合は問い p4cの効果		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自己紹介                         <ul style="list-style-type: none"> <li>①名前②仕事③今週の研修で学びたいこと</li> </ul> </li> <li>2.Dr.Jの講話                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが happy,先生が happy だったらよい。そういう姿を子どもたちに見せなければならない。</li> <li>・p4cは先生と生徒ではなく、「we」がサークルを作って行う。</li> <li>・日本の学生が数学世界No. 1なのはなぜなのか知りたい。アメリカの生徒は数学的に考えることが苦手である。公式が使えないときにどうするかを考えることができない。</li> <li>・学問の根幹が危機に陥ったときにどうするかを p4c で考えたい。答えはない。不確実性（uncertainty）について話し合うのが p4c である。</li> <li>（トビさんの話）</li> <li>・p4cは雰囲気的大事である。人と人の接し方、伝え方を練習することができる。おのずと人との接し方を覚えてくるのだ。</li> <li>・我々は、生徒の未来についての手伝いをしたいと思っているが、子どもたちは今何とかしてほしいと願っている。その時、p4cは未来だけではなく、今のことに集中でき、子どもの心的回復力（mental resilience）を高めることにつながる。</li> </ul> </li> </ol>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと 従来の、先生から生徒に一方的に教えるというやり方を変えたいという願いから、p4cは生み出された。ゆえにp4cの基本は、「先生」と「生徒」ではなく、「私たち」つまり「together」であることが大事であるというDr. Jの言葉を常に意識して、今後のp4cの実践を参観しようと思った。また、それぞれのアプローチの仕方は違っても、子どもがhappyであることと同時に先生もhappyであればよいという言葉に、これまでの自分の教員人生を思い出し、いつどんな場面でどのようなアプローチしてきたのかを振り返る時間となった。日本は学生の数学の成績がNo. 1であるが、どうやって数学を教えているのか、なぜ成績が良いのかを教えてもらいたいというDr. Jの疑問に、自分なりに考えた。しかし、外国に行っても他の国の学生よりも日本人は英語が話せない。その現実を考えると、数学ができるというのは何の自慢にもならないと思った。		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 9:00 – 9:40	場所：学年：おおよその人数 場所：ワイキキ小学校 学年：4年生 人数：25名	記録手担当氏名：  <div style="text-align: right;">保科 優子</div>
-----------------------------------------	-------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

テーマ：※p4cの場合は問い  
 すべてのものにアレルギーをもっていたらどうしますか。

対話・活動概要：

児童の反応

- ・手術を受けないとだめだね。・空気にもアレルギーがあるから生活できない。  
 （ここから火星に住んでみたら？というように住む世界を広げて考える。）

先生：「アレルギーを持つことに対してもアレルギーなのでは？」

- ・それは混乱を招く質問だね。・すべてとうことは銀河に行ってもだめなの？

先生：「感情に対してアレルギーを持つことはできるか。」

- ・自分に対してアレルギーを持つなら考えに対しても持っている。・特定の感情にだけ持つのかな？  
 2つの感情が同時にきたら？

振り返りの場面

- ・「手を挙げていたのに全然しゃべることができなかったのが面白くなかった」と話した児童がいた。
- ・面白いトピックだったかという質問に対しては、「みんな楽しそうに話していたからよかった」という意見が出た。

活動後の先生の話

- ・はじめは自分が勉強不足だったので、p4cはうまくいかなかった。教員間で勉強会をするようになり、だんだんうまく進められるようになった。

私にとって印象的だったこと、私が学んだこと

先生が切り返しの質問をしたときに、それに答える児童はいたが、ほとんどは元の問いに対する自分の考えを発言するにとどまり、発展がなかったように思う。でも p4c はこれでもよいのだろう。「卵が先か鶏が先か」論争に近いので、発言に対する反論の内容がほぼ決まっていた。また、先生が手を挙げたときに、児童は必ず先生にボールを渡していたので、そういうルールがあるのかを確認したい。

先生の隣に座っていた児童2名が、他の児童の発言を聞きながら、チップ（コイン）をボードの上に置いていた。ボードは7枚あり、True, Example, Reason, If-then 等と書かれていた。子供たちの発言の良さを視覚的に捉えさせ、全員で共有する手立てが取られていた。この手立てもセーフティな状態を作り出していると感じた。（板垣）

（信太）

アレルギーというテーマから話題に広がりが見られたが、難しいテーマであるようにも思えた。教師が子どもの様子を見取り、上手にコディネートをしていた。

- ・アレルギーを「拒否反応」として捉えて対話している子が多い印象。途中、トビーが「考えたことに対するアレルギーがあるとしたらどうなる？」という問いを出した。自分の考えだけではなく、他者の考えに「アレルギー」を持つことの是非、に話が及ぶかと思ったけれど、子どもたちの対話はそうはならず。もし中学生や高校生であったら、生物分野で「アレルギーは免疫反応」という知識を前提に p4c を行ったら、違う展開になっているかもしれない（久保）。

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 9:00 - 9:40	場所：学年：おおよその人数 場所：ワイキキ小学校： 学年：2年生 人数：約20名	記録主担当氏名：  <p style="text-align: right;">武山幸一郎</p>
テーマ：※p4cの場合は問い どうして感情があるのか。		
対話・活動概要： 担当教師：Mis.Ikeda(2 <sup>nd</sup> grade)		
1. ルールの確認 p4cの一般的なルールの確認		
2. 問いを決める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の色はなぜ違う。・世界が虫だったらどうなるか。・新しい地球はどうなるか。</li> <li>・人間がおぼけだったら。・学校がなかったらどうか。・どうしてゲームがあるのか。</li> <li>・ウェブサイトとQRコードはどう作るのか。</li> <li>・なぜ感情はあるのか。←この問いに決まる。</li> </ul>		
3. 子どもの発言（記録できた範囲） <ul style="list-style-type: none"> <li>・もし感情がなかったら...誰かにいじめられたら感じられない。</li> <li>・感じなかったらスーパーマンになるかも...</li> <li>・悲しい顔を見せられない。</li> <li>・ペットがなくなっても、悲しい感情を感じない。</li> </ul> T: それは良いこと？悪いこと？子どもが指でいい悪いを示す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・悲しいけど、親が新しいペットを飼わないかもしれない。</li> </ul>		
4. 自己紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初にできなかったのが途中になった。</li> </ul>		
5. 授業後のディスカッション T: クラスはどうだった？最高、普通、よくない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの人は聞いていた。・みんな聞いていてよいと思った。</li> </ul> T: みんなの話を聞いて新しい考えが生まれたか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと同じような考えをした。新しい考えはなかった。</li> </ul> T: 自分の参加はどうだった？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく聞いていた。・他の人としゃべらなかった。</li> </ul> T: 今日はshareが足りなかったように思う。しゃべる人、しゃべらない人がいた。		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと 小学2年生で、ここまで深い問いについて語り合っている様子に驚いた。教師が的確に間に入って、問いを深めていく様子を見ることができた。同じような答えが繰り返されたときに、教師が新たな問いを投げ掛けていくようにする場合があるそうである。しかし、子どもはその問いに答えても、答えなくともいい。その辺に、自分にあった対話への参加の仕方を選んでいる自由さを感じる。今、自分が考えているところについて、話をすることができる。無理がないのだと思う。 よく発言していた子どもが、振り返りのときに「普通」より少し下気味に自己評価をしていた。その理由が「新しい考えは無かったから」であった。自分のことを客観的に捉えていることに驚いた。逆に授業中、一回も手を挙げていない子どもが振り返りのときに「新しい考えが生まれた」と腕を高く上げていた。発言の回数ではなく自分なりの自己評価をしていることが分かり、p4cは自分の内面での問いの深まりなのだということを感じた。（石井）		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 9：00 - 9：40	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：4年生：約 24名	記録手担当氏名 ：鈴木 由佳
テーマ：※p4c の場合は問い ハロウィンのコスチュームが現実になったら？		
対話・活動概要： <ul style="list-style-type: none"> <li>①自己紹介（自分の名前・好きな食べ物）</li> <li>②「ハロウィンのコスチュームが現実になったら？」について話し合う                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画と同じになる　・植物なら水が必要　・スーパーマンならパワーが出る</li> <li>・ヒーロー（ヒロイン）の性格になるのか，自分の性格は残るのか</li> <li>・自分の体に影響は出るのか　・自分には戻れるのか（自分の服を着れば戻れる）</li> <li>・骸骨の服を着たらそうなるのか，自分の骨はどうなるのか</li> <li>・自分の記憶はどうなるのか　・亡くなった人に仮想したら生き返るのか</li> <li>・恐竜などになったら，どうやって生き残るのか                              草食と肉食でも違う　自分の子を食べるのか　親だったら食べると思う                              子どもの歳でも違う</li> <li>・ミイラはトイレットペーパーになるのか</li> <li>・クレヨンやペンなど物だったら命はどうなるのか　　など</li> </ul> </li> <li>③振り返り</li> </ul>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと このクラスでは、週に1回英語の時間に p4c を行っているということだった。クラスの雰囲気はだんだん良くなっている、p4c に関して、質問で発展していかないのはクラスの課題だと、先生が話されていた。日本語を話すことができる先生で、逐一通訳してくれたので、だいぶ内容を理解することができた。印象的だった点は、色々な視点からの自由な思いがたくさん表出されていたということである。多方面からの豊かな見方を感じ取ることができ、子どもたちも生き生きとしていた。特に「自分の記憶」や「亡くなった人」に関する発言について私は興味を惹かれたが、特にその点についてはあまりその後の言及はされなかった。かたや、「恐竜」についてはその後の発言がいくつか続いたので、子どもらの関心は少なからずそちらに向いていたのかもしれない。 担任の先生が名簿にきちんと p4c の記録を残していた点が、参考になった。いつ、どの児童が何回発言していたか、数を示す棒で記録されていた。そんな細やかな姿勢は、国が変わっても大切だということ、改めて再認識した。 小学4年生の子ども1人1人の発言の内容は想像力豊かであった。担当教諭は発展が少なかったが8月より成果が出ていると評価していた。		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 10：00 - 10：40	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校職員：約 14 名 p 4 c 研修日本人教員：13 名 通訳：2 名	記録主担当氏名：
テーマ：学校職員の紹介・p 4 c とは		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ワイキキ小学校校長先生から学校職員の紹介</li> <li>2 教育課程への p 4 c の取り入れ方</li> <li>3 メンター制について</li> <li>4 教育委員会との関係</li> <li>5 自分たちにとって、真のリーダーは「ワイキキ小学校元校長先生」</li> </ol>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生が教育委員会とのやり取りの中で、「p 4 c ほど考えることのできる教科はあるのか」と問うようにしている、と話されていた。校長先生のこの言葉のお陰で、教員たちは同じ方向を向いて取り組めると感じた。（石井）</li> <li>・ワイキキ小学校元校長先生を偲ぶ場面があり、心から向き合う校長先生だったという話から、人の心を動かすのは人の心（魂）なのだということを実感した。（石井）</li> <li>・ドクター J が話した前校長先生の人柄。一人一人の心に話し掛ける方だったという言葉が心に残った。個々の心に寄り添う方だったのだろう。また、ハワイでいう学校のみドルリーダーとは、理念であるマインドフルネスとはどういうことなのかを伝える役割があるということを知った。日本のみドルリーダーは「やり方」を教えることがほとんどではないだろうか...理念について話し合う時間の大切さについて考えさせられた。（武山）</li> <li>・どの教科で、どの時間に p 4 c をするかは、先生たちに自由度があるとのことだった。ある程度の自由が保障されていることが、先生たちの創造性を高め、やる気を換気させていると感じる。（板垣）</li> <li>・1 年担任の先生が、「書けないけれど p 4 c での対話を聞くと、レベルの高い発言に驚く」と話していた。私も今回の p 4 c 参観で同様の感想を持つことが多かった。年齢とはただの数字であって、〇年生だからと先入観を持って子供に対することの危うさを認識した。（板垣）</li> <li>・「p 4 c をすることで、読むときには『なぜ？』と考えながら読むようになり、書くときには理由を付け加えながら書くようになっている」と 1 年担任の先生が話していた。探究の対話が学びの土台となっていると感じる。（板垣）</li> <li>・Amy Wada 先生に尋ねたところ、ワイキキ小の各教室で机や椅子が統一されておらずバラバラなのは、ある程度各学級担任に裁量があって各自で決めて良いことになっているとのこと。これはハワイの中でも珍しいとのこと。日本の学校ではあり得ないね、という話をした（久保）。</li> </ul>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水曜日） 10:00 - 10:40	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：2年生：22名	記録主担当氏名：板垣英恵 参観者：久保，信太，保科，板垣
テーマ：※p4cの場合は問い もし、魔法の薬があったらどうするか。		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介（名前，好きなもの）</li> <li>2 p4c</li> </ol> <p>「そもそも魔法の薬とは何か」という発言から始まった。「ハリーポッターに出てくる飲み薬みたいな物，他のものに変身できる薬，危険なものに変わることができる薬」と次々に子供たちの想像が広がっていった。その後，「誰がそもそも作るのか」「誰が飲むのか」「ポーションとは何か」「どんな種類のものか」など子供たちの問いが生まれていった。</p> <p>途中で「魔法の薬は良いものか，悪いものか」という問いが提示された。自分はどちらの立場なのかを示してから理由（Because）を話すようになっていった。最後には「その薬を飲むか，飲まないか」という話題について話していた。</p> <p>最後のリフレクションでは，コミュニティボールを前に出て取りに行っていた子がいたため，セーフティではなかったと答えた子供もいたが，大多数の子供は，時間が足りない，もっと話したいという反応であった。</p>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <p>クラスの半分以上が英語の勉強中ということで，そもそもの単語の意味についての問いを発する子供がいた。多人種，多言語の子供の集団であるという実態を実感した瞬間だった。しかし，そのような実態であっても，子供たちは互いの考えを聞き合い，問いを出し合い，考えが広がり深まっていった。子供たちの探究には終わりはなく，不確実なことについて考えることを楽しんでいると感じた。</p> <p>特定の答えを導き出すことや，相手を説得することが目的ではなく，いろんな視点から考え，聞き合い，多様な考えに触れることが思考の高まりや深まりにつながっていくのだと学んだ。</p> <p>（信太）</p> <p>教師との会話で，<b>potion</b>（ポーション）自体の意味理解がクラスの半数以上の子どもが理解できていなかったもので，その理解をさえることが大変だったということだった。2年生という発達段階を考えると，同じような現象が日本の小学校でも起きると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の先生による最小限の介入の下，2年生の子どもたちがスムーズに p4c を進めていることに感心。「薬を飲んで他の人になった時，どうやって本物を見分けるのか」という問いが出たので，「私が本当の私と証明するにはどうすればよいか」と考えさせられた（久保）。</li> </ul> <p>振り返りの場面で，「ボールの投げ方が危険だったから，セーフティではなかった」と発言した児童がいた。誰かの投げたボールが別の人に当たったのでそれを危険と感じたのだろう。2年生なりに，しっかりと観察しているのだと感じた。（保科）</p>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 10:00 - 10:45	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：1年生：約22名	記録主担当：石井恵子 参観者：佐々木、武山、 小野寺
テーマ：※p4cの問い「もし毎日誕生日だったら」		
対話・活動概要：		
1 自己紹介（名前と出身） 2 問いを考える（全員が問いを出す） 前週は「もし地球が水だけだったら」という問いで話し合った。 問いとして、「もし、海の下が水だったら」「クッキーでできた地球だったら」「水がない地球だったら」「もし毎日が誕生日だったら」「もし食べ物がなかったら」「もし地球に酸素がなかったら」などが上がった。中には私たちの方を見て「もし日本がなかったら」などが出了。 3 問いを絞り（顔を伏せて多数決）、一つに決定する 「もし毎日誕生日だったら」という問いに多くの子どもが挙手した。 4 対話する 「毎日誕生日だったらお菓子を食べ過ぎる」「特別じゃなくなる」「毎日プレゼントがもらえる」「命が短くなる」「週一回の方がいい」「早く大人になれる」「ケーキを食べ過ぎて飽きちゃう」「毎日だとよくないかも」「楽しいけど疲れる」等。 5 振り返り（新しいアイデアをもてたか、安全だったか、聴くことができたか）		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問いを考えたときに、教師は前週の問いを振り返らせながら、「友だちがよく考えるような問い」を考えようと声掛けした。一年生の段階から、問いは何でも良いのではなく考えることのできる問いを立てることを意識させていることが分かった。</li> <li>・ 教師が「What If」を使って例示を示した後、子どもたちは「What If」を使って問いを出していった。教師が出だしの問いを示すことで一年生の子どもたちにとって話しやすく、思考が整理しやすくなる感じた。</li> <li>・ 途中で教師が何回か注意を促した。他の子どもが話しているときにしゃべった子どもに対して「うるさいよ」ときちんとしていたのだ。またボールを持っていないときに話す子どもがいて、そのような子どもに対しても「ボールを持っていないときは話さない」とp4cのルールを確認していた。これらのことから、活動の中でルールを守らないことに対しては毅然とした態度で注意を促すことが一般的に行われているということに驚いた。このような積み重ねが話を聴くという習慣につながっていくのではないかと感じた。</li> <li>・ 問いが出た後に投票を行った。その際、実際のカレンダーを差しながら教師が、実際に来週投票があるという話をした。そして、投票というのはとても大事なものだ、としっかり子どもたちに伝えていたのが印象的であった。一年生から投票の大切さを伝えていることに驚いた。</li> <li>・ 「毎日誕生日だったら」という問いの基、全員が話をしていた。その中で、「毎日誕生日だと命が短くなる」と述べた子どもがいた。この発言をしたときに教師の表情が一瞬変わった。私もこの子どもの発言は深いと感じた。教師はその子の発言を取り上げてカレンダーを使いながら早く年を取ることを確認した。子どもたちの思考を更に深める場面だと感じた。</li> <li>・ 毎日誕生日だったらという一見深まらなそうな問いであっても、子どもたちはそこに哲学を見出していくのだと感じた。（武山）</li> </ul>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 10:00 - 10:45	場所：学年：おおよその人数 場所：ワイキキ小学校： 学年：2年生（B10） 人数：約20名	記録主担当氏名：  <p style="text-align: right;">日野 大治</p>
テーマ：※p4cの場合は問い 子どもがスーパーパワーを持つことは良いことか？悪いことか？		
対話・活動概要： 担当教師：Mis. Ann Suphan (2 <sup>nd</sup> grade) 1. ルールの確認 p4cの一般的なルールの確認 + ボールをみんなに回すことと心と体で傾聴することを確認 2. 問いについて子ども達の意見の反応 全体の約80%が良いことに同意。約20%が悪いことに同意。 3. 子どもの発言（記録できた範囲） 良) 過去と未来を知ることができる。 宿題から逃げられる 飛んでいける 戦争を止めることができる 長生きできる 悪) スーパーパワーがあるとお互い争うから良くない 4. 授業後のディスカッション 子どもの対話が前進したか？→yes/no 両方 お互いにプロGRESSし合っていた 今日の子供達は集中し、沢山の子どもが発言した（参加度が高かった） 8月からp4cを取り組んで今日が一番よかった要因は、問いを刺激して問いが広がっていった。実践（週1回英語で実施）を重ねて聞いたことが要因。		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと 小学2年生が傾聴し多くの子どもが自由に発言する様子を目の当たりにして衝撃を受けた。8月から3ヶ月の短い期間でここまで自分の意見を話せる思考はこれから生きていく時代に必要なスキルだと感じた。 授業冒頭で、聞くときは「体と心全体で」と大切なことをきちんと確認しており、参考になった。全体を通して、たくさん手があがるなど意見が活発で、よく反応していた。参加度が高く、児童が集中している授業だった。p4cは低学年からの積み重ねがあってこそ、より質の高い話し合いができるようになるのだろうと感じた。（鈴木）		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 10：00 - 10：40	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校職員：約 14 名 p 4 c 研修日本人教員：13 名 通訳：2 名	記録主担当氏名：
テーマ：学校職員の紹介・p 4 c とは		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ワイキキ小学校校長先生から学校職員の紹介</li> <li>2 教育課程への p 4 c の取り入れ方</li> <li>3 メンター制について</li> <li>4 教育委員会との関係</li> <li>5 自分たちにとって、真のリーダーは「ワイキキ小学校元校長先生」</li> </ol>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生が教育委員会とのやり取りの中で、「p 4 c ほど考えることのできる教科はあるのか」と問うようにしている、と話されていた。校長先生のこの言葉のお陰で、教員たちは同じ方向を向いて取り組めると感じた。（石井）</li> <li>・ワイキキ小学校元校長先生を偲ぶ場面があり、心から向き合う校長先生だったという話から、人の心を動かすのは人の心（魂）なのだということを実感した。（石井）</li> <li>・ドクター J が話した前校長先生の人柄。一人一人の心に話し掛ける方だったという言葉が心に残った。個々の心に寄り添う方だったのだろう。また、ハワイでいう学校のみドルリーダーとは、理念であるマインドフルネスとはどういうことなのかを伝える役割があるということを知った。日本のみドルリーダーは「やり方」を教えることがほとんどではないだろうか...理念について話し合う時間の大切さについて考えさせられた。（武山）</li> <li>・どの教科で、どの時間に p 4 c をするかは、先生たちに自由度があるとのことだった。ある程度の自由が保障されていることが、先生たちの創造性を高め、やる気を換気させていると感じる。（板垣）</li> <li>・1 年担任の先生が、「書けないけれど p 4 c での対話を聞くと、レベルの高い発言に驚く」と話していた。私も今回の p 4 c 参観で同様の感想を持つことが多かった。年齢とはただの数字であって、〇年生だからと先入観を持って子供に対することの危うさを認識した。（板垣）</li> <li>・「p 4 c をすることで、読むときには『なぜ?』と考えながら読むようになり、書くときには理由を付け加えながら書くようになっている」と 1 年担任の先生が話していた。探究の対話が学びの土台となっていると感じる。（板垣）</li> <li>・Amy Wada 先生に尋ねたところ、ワイキキ小の各教室で机や椅子が統一されておらずバラバラなのは、ある程度各学級担任に裁量があって各自で決めて良いことになっているとのこと。これはハワイの中でも珍しいとのこと。日本の学校ではあり得ないね、という話をした（久保）。</li> </ul>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 12:30 – 13:15	場所：学年：おおよその人数 場所：ワイキキ小学校 学年：4年生 人数：17名	記録手担当氏名：  保科 優子
テーマ：※p4cの場合は問い 人生で何もなすことがなかったら人生の意味は何でしょうか。		
対話・活動概要： ○導入場面 まず全員自己紹介をした。日本人の児童がおり、私たちの近くに座った。うれしそうだった。本題に入る前に、水族館に行って学んだこと、p4cで大切にしていることを児童に発言させていた。後で分かったことだが、児童が「ハローウィンの帽子をかぶったイソギンチャクを見に行きたい」と言ったことが水族館に行った理由だった。 ○テーマに対する児童の反応 ・10歳まで生きただけでも価値があることだから、生きてることだけで価値がある。・必ずしも働きたいと思わないし、自然の中で生きるのもいい。・その年齢や学年によってやるべきことが増えそう。・大きくなったらやるべきことも増えるのかな。 先生の発言：「今はだるくて何もしようとしない人は罪を感じるひつようはありますか」 ・成し遂げるといことがその人にとってどんな意味があるかが大切。・何にも成功しないということかそもそも不可能なのではないか。・つまらないという感情も自分が作り上げている。・「人生」＝「幸せになること」成功しなかったら悲しいな。・健康でいることが何かを成し遂げているということなのだ。  私たちが入っても、先生がアイスブレーキングで児童の緊張をほぐし、とても良い雰囲気が始まった。難しいテーマであったが、生きてることの価値、両親が喜んでくれた、成し遂げたということの評価は誰がするのか、という話にまで発展していた。		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと 他の国から移住してきた児童が多く、「自分が英語を話せるようになったとき両親はとても喜んでくれた」「英語を話せるようになっていなかったらみんなと楽しくおしゃべりもできなかった」と、これまで自分が成し遂げてきてよかったと思うことを多面的・多角的に発言していたことが印象的だった。日本でこのテーマについて話し合ったら、障害者のことについて触れる子どもが必ずいるだろうと思った。日本の子供は「自分ではない他の人」をたとえて話すことに対して、外国の子供は「自分が」を主語にして意見を出す傾向があるかもしれないと思った。 話合いに参加していない児童が各クラスに存在しているが、考えていないのではなく、もしかしたらまだ英語がよくわからないのかもしれないと思った。 （信太） とても興味深いテーマであった。子どもたちなりによく考えて発言していた。生きることの意味や価値について考えることは、日本では生活科で自分の成長を振り返り学習することや道徳で扱うことはあるが、その意味まで深く考えることは少ないと思う。 ・「人生で何も達成できなかったとしたら、生きる意味はあるか？」という問いに、全ての子が「達成できなくとも人生に意味がある」といったニュアンスで答えていて、「生きる意味はない」と答えた子はいなかった。子どもたちの自己肯定感の高さを感じた（久保）。 授業の最初に先生から様々な問いが提示され、多数決で上記の問いに決まった。人生の意味について考えるを選択したことに驚きであったが、教師も子供も関係なく、一緒に考え、互いの意見に敬意を表		

---

し対話をしていた。「例えば…」を付けた子供の発言が多かった。問いに対して自分の内面と対話していることの表れだと感じた。(板垣)

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 12:30 - 13:15	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：5年生：約19名 ＊その他 教師2人，大学教授2人	記録手担当氏名： 小野寺 留菜
テーマ：※p4cの場合は問い 自然の意味は？		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介（名前・好きなもの）</li> <li>2 フルーツバスケット</li> <li>3 P4Cのルール確認（人の話しをよく聞くこと及び深く考えること）</li> <li>4 P4C                      （児童）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きるもの ・全て地球があるからあるもの ・地球の存続のためにあるもの</li> <li>・食べ物をくれる・忙しい中でも自然に感謝する時間が必要 ・自然で新たなものを作り出せる（葉と木で火が生まれる） ・自然の中にいると落ちつく。自然は私たちをケアするもの、大切にしなければいけないもの ・自然がなければ人間は生きられない</li> <li>・水や酸素がなければ生きられない ・私たちが支えるもの・資源となる自然</li> <li>・地球を守らなければいけない ・新鮮な空気の維持 ・プラスチックは自然のものなのか・人工的なものだと思う。死んでいるものは美しくない ・自然は一つか？複数なのか？自然は生きているのか？ ・良いか悪いかはわからないけど地震とかに気を付けたほうが良い ・いつか自然がなくなる可能性は？ ・プラスチックは自然なものだ。</li> </ul>                     科学が発展して作られたけど自然がなければ宇宙もない。自然をコントロールせずそのまましておくべきだ。動物は動物を食べている。・自然のバランス ・ビーゲンバーガーは自然か？牛が入っている。大事なものは必要な分だけ食べることだ ・悪い植物は、他の植物を殺す プラスチックは自然にかえらないから植物を殺す・自然災害に合えば自然に住むか？木で家を作るだろう，プラスチックを作るとき，私たちは考えなければいけない，食べたら死ぬ魚がいる                 </li> <li>5 振り返り（よく話しを聞くことができたか及び考えを深めることができたか）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話しを聞いてよく考えられた。</li> </ul> </li> </ol>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <p>テーマに沿って発言する中で、自然は人にとって資源であり、ケアをしてくれる大切な存在である。プラスチック等自然にかえらない有害なものを生み出す際には検討することが大切であり、必要な分のみを得る方が良いという内容で授業時間が終了となった。授業終了時刻になればより話しが深められる可能性があっても終了する。メリハリが生まれ集中して授業に取り組めることにつながると感じた。</p> <p>論点がずれることなく、それぞれが積極的に手を挙げてボールを受け取ったらすぐに発言する姿に驚いた。</p> <p>ある子どもが新しい問いを投げ掛ける場面が見られ、子どもたちが自分たちで話を深めたり広げたりしている姿に驚いた。また、「プラスチックは自然のものか」という問いに対して、賛成・反対など様々な意見が飛び交う中、冷静に相手の考えを受け止めて話す姿が印象的であった。（石井）</p> <p>「自然とは何なのか」という根本的な問いと、プラスチックの問題が行き来していたように思う。環境問題については話しやすいのか発言をする子どもが多かったように感じた。（武山）</p>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 12：30 - 13：15	場所：学年：おおよその人数  ワイキキ小学校：5年生：約 19名	記録手担当氏名：  鈴木 由佳
テーマ：※p4cの場合は問い 大人と子供、どちらが先か		
対話・活動概要： <p>①自己紹介（名前・好きな動物）</p> <p>②「大人と子供、どちらが先か」について話し合う</p> <p>→（理由）みんな子供が先というけれど、子供はどこから来たのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな小さい頃から成長するから子供</li> <li>・そもそもバクテリアから細胞分裂する</li> <li>・全ての大人は内側に子供を持っている</li> <li>・原始人は子供を持つ大人なのか</li> <li>・そもそもチンパンジーが人間になる（進化の話）</li> </ul> <p>→ベン先生...混乱している サークル（サイクル）の始まりはどこなのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人類はどのように出現したのか</li> <li>・聖書の創世記によると神が男女を作ったから大人から始まる</li> <li>・大人の中に子供がいる 私の母もそうだ 自分の友達のようにだ だから大人</li> <li>・じゃあ神はどこから来たのか ・大人も子供も同じだ ・内側が先だ</li> </ul> <p>→田端先生...あなたの思う大人と子供とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして大人は傷を負った子供なのか ・始まりを決めることはできない</li> </ul> <p>③振り返り</p>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと <p>教室に入った際に、田端先生が「とてもしつとりとした雰囲気を感じる」とおっしゃっていた。言われてみれば、まず担任の先生を囲んで物静かに座っている表情や姿勢から、児童らの前向きな意欲や集中力を感じ取ることができた。実際始まってみれば、抽象的なテーマに対して、どの児童も真剣に考えていた。ばかにしたり、余計な言動をはさんだりするような姿は一切なく、まさにセーフティな状態が保たれていることを感じた。</p> <p>考えても終わりがいいような問いに対して、様々なジャンルの発言が出てきたことも面白かった。科学的な見方、進化論に基づく見方、神の計らいという見方...子供たちは自分の考え以外にも様々な考えがあるのだというような、多様性を認め合える環境におり、実生活でそれを体現することがきつとできているのだろうと感じた。</p> <p>人類の進化や聖書の発言があり発展する展開が多く p4c の魅力を感じた時間であった。</p>		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 16:30 - 17:30	場所：ハワイ大学 7名（ハワイ大学学生2名， 日本人参加者5名）	記録主担当： 武山幸一郎 参観者：丸山，板垣 保科，久保
テーマ：※p4c 日本と比べて、ハワイの p4c，学校の様子はどうか。		
対話・活動概要： ハワイ大学の学生に、ワイキキ小学校での p4c や学校の様子を見て、感想を伝えたり、質問したりした。 ・ p4c について、ワイキキ小学校は、とてもセーフティな雰囲気が作られている。また、先生方がそのような雰囲気をつくろうとしている様子が伺える。 ・ 先生方が大らかで働きやすい雰囲気がある。忙しさに追われていない。 ・ 昔は、ワイキキ小学校は所得の高い層だけの学校ではなかったのに、なぜ、p4c をはじめ、新しい教育を行ったことにより、富裕層が通う学校になっていったのか。 →ワイキキという場所が富裕層の多い場所になりつつある。また、外国からハワイに移り住む人が増えることで、現地に住んでいる方との2極化が進んでいるように思う。 ・ p4c をすることと評価の関係について、子ども達や学生が評価を気にしながら、p4c をすることにならないか。 →先生方は、評価はしているのだろうと思うが、対話を通して信頼関係を形づくる先生が多い。評価を感じさせないし、子どもたちや学生もそうであると思う。		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと ・ ハワイ大学の学生は、YUKI さんが通訳をしてくれて、現地に昔から住んでいる学生が私たちの質問に答えてくれた。問いを立てて話し合う p4c という形ではなく、感想を伝え、質問する形となった。昔から現地に住んでいる学生が答えてくれたことで、本音の部分の聞けたように思う。 ・ ハワイ大学学部生の CJ に、ハワイの教育の実態についてインタビューする p4c。印象的だったのは、ワイキキに移住してくる新住民によって、元から現地に住んでいる住民が「割を食っている」面もあるということ。ハワイに限らず、世界のいろいろなところで生じている問題と思う。だからこそ対話のスキルや機会が重要視されるのだとも思う（久保）。 ・ ハワイ州のいわゆる学習指導要領に則って先生方は教えているのではないかということであった。一方で、先生は友達的な関わり方をする部分もあり、「何でも話していいよ」ということを繰り返して子供に伝え、そのような雰囲気づくりをしているとのことだった。ハワイと日本の学校のカリキュラム上の違いは大いにあると考えられるが、先生方の子供への向き合い方は学ぶことが多かった。先生方の生の声をもっと聞きたいと感じた。（板垣）		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 16：30～17：30	場所：学年：おおよその人数 ハワイ大学：大学院生：約6名 大学教授1名 通訳1名	記録手担当氏名： 小野寺 留菜
テーマ：※p4cの場合は問い マスクとはなにか		
対話・活動概要： 第1グループ 1 全員で自己紹介（名前） 2 グループに分かれて P4C <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクは内面のマスクと実際にするマスクとがある・いつも人はマスクをしている</li> <li>・マスクは先生のマスク，夫としてのマスク，犬の父親としてのマスクなど使いわけていて本当の自分とはなにかよくわからなくなってくることもある。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で実際にマスクをしてから子どもたち同士のコミュニケーションがなくなってきている。そういった経験はないか？</li> <li>・大学でオンライン授業があると大学生たちは自分の顔を画面に映したがらない。それは、家では快適な場所でリラックスして過ごしているが、大学では生徒の顔があるからだ。家という場所で、生徒という顔をするのは混乱するからではないだろうか。</li> <li>・確かにそういったことはある。画面越しでのコミュニケーションは難しい。</li> <li>・P4Cは画面上では難しい。</li> <li>・生徒が心を開けない状態の時は、実際にマスクを着用する人が多い。マスクを着用していると生徒同士のコミュニケーションもなくなってくると話されていたが顔が見えない状態というのはコミュニケーションが難しい状況を招くのかもしれない。</li> <li>・日本語でも意味が分からない。</li> <li>・日本では化粧も校則で禁止しているけど、コンプレックスにより過度に化粧をする生徒がいる。</li> <li>・そのようなときはどんな対応をしますか？</li> <li>・信頼関係を構築する必要があるのでよく話を聞く。</li> <li>・小学校でもコミュニケーションの不足をマスクによって感じることもある</li> <li>・自分を隠す時というのは、弱っている時や不完全であるとき。そう考えると、赤ちゃんは本当の自分ではないか。人は場面等に応じてマスクをして人と接するための考えを作っていく。演じているうちに自分になっていくのではないか。</li> </ul>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと P4Cは、自由に発言してよい場所であるが時に周囲の反応によって受け止めは必ずしもポジティブにならない可能性があると感じた。セーフティは、共通理解は必要だと感じた。P4Cは初対面の人との集団の中でも可能なのか疑問に感じた。 今回の p4c はテーマが難しい内容であった。ディスカッションは刺激的であり海外生の考え方や発想を知り得ることができ新たな視点を得られた。この時間、一部セーフティーが守られていない様子があり残念であった。		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/2（水） 16：30～17：30	場所：学年：おおよその人数 ハワイ大学：大学院生：約6名 大学教授1名 通訳1名	記録手担当氏名： 小野寺 留菜
テーマ：※p4cの場合は問い マスクとはなにか		
対話・活動概要： 第1グループ 1 全員で自己紹介（名前） 2 グループに分かれて P4C <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクは内面のマスクと実際にするマスクとがある・いつも人はマスクをしている</li> <li>・マスクは先生のマスク，夫としてのマスク，犬の父親としてのマスクなど使いわけていて本当の自分とはなにかよくわからなくなってくることもある。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で実際にマスクをしてから子どもたち同士のコミュニケーションがなくなってきている。そういった経験はないか？</li> <li>・大学でオンライン授業があると大学生たちは自分の顔を画面に映したがる。それは、家では快適な場所でリラックスして過ごしているが、大学では生徒の顔があるからだ。家という場所で、生徒という顔をするのは混乱するからではないだろうか。</li> <li>・確かにそういったことはある。画面越しでのコミュニケーションは難しい。</li> <li>・P4Cは画面上では難しい。</li> <li>・生徒が心を開けない状態の時は、実際にマスクを着用する人が多い。マスクを着用していると生徒同士のコミュニケーションもなくなってくると話されていたが顔が見えない状態というのはコミュニケーションが難しい状況を招くのかもしれない。</li> <li>・日本語でも意味が分からない。</li> <li>・日本では化粧も校則で禁止しているけど、コンプレックスにより過度に化粧をする生徒がいる。</li> <li>・そのようなときはどんな対応をしますか？</li> <li>・信頼関係を構築する必要があるのでよく話を聞く。</li> <li>・小学校でもコミュニケーションの不足をマスクによって感じることもある</li> <li>・自分を隠す時というのは、弱っている時や不完全であるとき。そう考えると、赤ちゃんは本当の自分ではないか。人は場面等に応じてマスクをして人と接するための考えを作っていく。演じているうちに自分になっていくのではないか。</li> </ul>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと P4Cは、自由に発言してよい場所であるが時に周囲の反応によって受け止めは必ずしもポジティブにならない可能性があると感じた。セーフティは、共通理解は必要だと感じた。P4Cは初対面の人との集団の中でも可能なのか疑問に感じた。 今回の p4c はテーマが難しい内容であった。ディスカッションは刺激的であり海外生の考え方や発想を知り得ることができ新たな視点を得られた。この時間、一部セーフティーが守られていない様子があり残念であった。		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/3（木） 8:30 – 9:30	場所：学年：おおよその人数 ワイキキ小学校：4年生：約16名 ＊その他 教師2人，大学教授1人	記録手担当氏名： 小野寺 留菜
テーマ：※p4cの場合は問い 頼りあうことは必要か		
対話・活動概要： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介（名前）</li> <li>2 P4Cのルール確認</li> <li>3 P4C                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と家族のことを考えるところから始めましょう。（先生）・国が相互に頼りあうことができれば戦争はない・自立をしていれば頼り合うことは必要ではない・頼りあうことと信用することの理由は何？・知らない人に頼ることはできるのか・助け合えば良い世界になるのか，信頼も必要ではないか・頼らない例は？ばれたら嫌なときは頼ることができない・先生に頼るのは良いが，宿題を親に助けてもらいすぎるのは良くない・宿題を助けてもらいすぎるのは自分のためになっていない・旅行の時に植物に水をあげるのは頼ることではないか・家族は愛があるから頼りあう・信用することと頼りあうことの違いは分からない・親に必ずしも頼るわけではなく友人にも頼る場合がある・TVの話は，友達とすることが多い・なぜ家族に言わないのか？（先生）・TVで体操選手の話を見た。体操選手は親から圧力がかかっていると言いたいことを言えていなかった</li> <li>・親子は相互に助け合う・赤ちゃんは親に頼るが成長するにつれて頼りになる部分が少なくなると思うか（先生）・少なくなると思う・今は宿題をしろというが，大きくなれば友達のように思う・知識があるから頼りたい・いつでも親に頼らない方が良い・年をとると頼れなくなる・家族と友達のことを話したが，知らない人だったら頼ることはできますか（先生）・スーパーに行けば店員には役割がある。知らない人でもみんな頼る・頼ることは事情や場面，理由がある・スーパーではケンカもみたことがある。・普通人に頼りますか？（先生）・自立が必要・一緒に遊ぶことは頼ること・泥棒や強盗も金が必要。・人は人をなぜなぐるのでしょうか？（先生）</li> </ul> </li> <li>4 振り返り（よく話しを聞くことができたか及び考えを深めることができたか）                     <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各自今回の振り返りをノートに記入</li> <li>2) クラスメイトと共有</li> </ol> </li> </ol>		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと 担任が児童たちに投げかける場面が多いP4Cであると感じた。 今回、はじめてパスをした児童を見た。その児童は、振り返りの際に、担任に手助けをもらいながら発言の機会を得ていた。担任が発言していない子どもを気にかけている様子が見て取れた。振り返りはP4Cノートに各自記入しており担任によって様々なP4Cがあることを知った。 ・p4cノートの書き方に決まりはなく、一人一人が自由に自分の考えや友だちの考えをメモしていた。ある児童は、授業の最後の感想として「いつも以上に考えることができたのでこれ以上は何も思いつかない」と書いていた。この児童は積極的に手を挙げて発言しており、自分を客観的に振り返ることができていると感じた。（石井） ・ワイキキ小学校のp4cと比較して、とてもシステマティックに感じた（日本ぽかった）。しかし、その分、子どもたちは自分がやることをしっかりと分かっており、問いに対して集中して取り組んでいる。ノートについても、自分の頭の中を整理するためのノートであると説明を受けた。また、発言していない子どもの心の動きもノートを見ることで見取ることができるのであろう。（武山）		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/3（木） 8:30 - 9:30	場所：学年：おおよその人数 場所：Ka'eplepule Elementary school 学年：6年生 人数：約31名	記録主担当氏名：  日野 大治
テーマ：※p4cの場合は問い 子ども達が親と教師の会議でどのように行われたかについて、お互いに話すことは良いことか？悪いことか？ Is it good or bad for kids to talk to each other about how their parent teacher conference want.		
対話・活動概要： 担当教師：mr.masuda(6 <sup>nd</sup> grade) 対応生徒：ニーナさん（日系） 1.自己紹介 氏名、好きな色 2.ルールの確認 p4cの一般的なルールの確認 3.問いの作成 保護者会について各自問いをホワイトボードへ記述 4.投票 各自2票投票 5.テーマを設定した理由 英語が理解できず無記録 6.問いについて子ども達の意見の反応 ・31名参加でグループが大きく全員が発言しているわけではなかった。 7.子どもの発言（記録できた範囲）  8.授業後のディスカッション 全体的に発展が少なかった（グリフより）		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと 終始子ども達が主体でp4cが展開された。31名1つのグループということもあり発言する子どもは限定的だった。また、問いやp4cの話の進みについて、参観中に問いの発展等を知りたかった。しかし、自分自身の英語力の問題で全く理解することができず残念だった。 抽象的な話題について、自分たちだけで（教師抜き）p4cを進める姿に圧倒された。これまでの積み重ねがあるからこそ、ここまで成長するのだろうと感じた。授業後に、学校での3者面談では、学校生活の様子について、児童が保護者に自分でプレゼンのように説明し、教師はその補助をするとのこと。児童が主体的に学校生活に関わる要素が個々にもあると感じた。（鈴木） ・p4cの経験を重ねてきているからこそその児童運営の実践であった。発言が限定されていたことについては、テーマによるものなのか、これから児童が育って多くの発言がみられるようになる途中の段階なのかは、この時間だけの見取りでは分からなかった。また、そもそも自分の英語力のなさと、ハワイの保護者会のシステムがどのようになっているのかが分からないので、深く理解することができなかった。（丸山）		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/3（木） 8:30～9:30	場所：学年：おおよその人数 場所：カエルプ小学校 学年：2年 人数：24名	記録主担当氏名： 保科優子
テーマ：※p4cの場合は問い 小さいことはよいことか悪いことか		
対話・活動概要： （あらかじめみんなで読んだ本の中から各自問いを考え、投票によって決めた） 児童の反応 ・私の姉が「小さくてもいいことがあるのよ」と話していた。たとえば茂みに逃げ込んだ小さな犬は助けられるけど、大きな犬は助けられない。・足の下をくぐれていい ・小さい人は足が速いことがある。・悪いところは小さいという理由でいじめられること。 先生「becauseを考えているからいいね。小さいことや大きいことはいいこと？悪いこと？」 ・悪いこと。なぜなら大きいと木に登った時に降りれなくなる。小さいと物事をするのが簡単。・でも大きいか小さいかはあまり関係ない。・小さいとディフェンスができない。・大事なものは挑戦し続けてベストを尽くすことだと思う。		
児童の振り返り ・ふざけすぎる人がいなくてセーフティだった。・集中している人もいれば話してる人もいた。・あまりトピックについて考えられなかった。		
私にとって印象的だったこと、私が学んだこと 落ち着いた雰囲気の中で先生の話もよく聞いていた。本時は、バスケットボール選手のマイケル・ジョーダンが背を伸ばすために靴の中に塩を入れてプレーしていたという話の中から問いを考えさせていた。日本で言えば道徳の時間にあるような対話だったと思う。日本の道徳の授業では、教材を読んで考えてみたい問いを生徒たちに考えさせるという授業がある。ただ、この授業のやり方には、教材を読んだだけであとは教材のねらいを無視して進めることになる、話が別な方向に飛んだ時に軌道修正できる力が教師にはあるかという意見がある。本時の授業でも、先生が切り返しの質問をしたとしても児童は元の問いについてしか意見を言っていなかった。日本の道徳において p4c を取り入れるならば、道徳科におけるねらいと p4c の目的を同時に考えながら指導しないと、学びのない授業になってしまうと感じた。 （信太） 教科書を使用して行う日本の道徳に似ているように感じたが、子どもたちの発想が多岐にわたっていた。通訳のるみさんと、この学校とワイキキ小学校との施設の違いについて簡単に情報交換をした。施設が立派な点（お金がかかっている）をあげていた。 ・対話の途中でトビーが「大きい小さいは体だけではなく、心の大きさ小ささもあるのでは？」と投げかけたが、2年生たちは体の大きさ小ささについて話す者が多かった。発達段階としては仕方ないことと思う（久保）。 ・対話の中で、「身長が違っていてもいじめになるとは限らない」「揶揄う人がいれば先生に言う」「いじめられる」という発言が複数あった。考える問いが異なるとは言え、ワイキキ小では耳にしなかったワードである。子供たちの内面にある差別や偏見というものに対する受け止めが見え隠れしているのかと感じたが、それをサークルの中で表出できることに p4c の良さがあるのだと感じる。（板垣）		

## ハワイ p4c 研修記録

日付（現地時間） 2022/11/3（木） 12:55 - 14:05	場所：学年：おおよその人数 場所：kailua High School 学年：Japanese Language and Culture 人数：約 12 名	記録主担当氏名：  <p style="text-align: right;">日野 大治</p>
テーマ：※p4c の場合は問い 衣装は人々の本来の本当の自分の姿を表現することにつながっているのでしょうか？ -ハロウィーンの衣装を着ることにより本来の自分が表現できるかどうか-		
対話・活動概要： 担当教師：Mis.kelly(HS) 通訳 シェリーさん るみさん（U H） 1.自己紹介 氏名 等 2.問いの作成 ハロウィーンについて、各自問いをホワイトボードへ記述 3.投票 各自 2 票投票 4.テーマを設定した理由 毎年秋が来るたびに人々が創造性豊かになっているところを見たから。コスチュームを着ることにより どう見られたいか表現したり、ハロウィーンが来るたびに普段よりも創造性豊かになりいつも以上のこ とを発揮していることが気になった。 5. 発言（記録できた範囲） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハロウィーンの時期になると表現として普段見せれない自分のある部分を見せることを可能にしている                      かもしれない。</li> <li>・子ども達が内側にあるファンタジーを表現している。</li> <li>・全ての衣装が本来の自分を表現するのか？（問）</li> <li>・どのように衣装を選ぶのか？（問）</li> <li>・自分を表現することと相手を楽しませることは同じなのか違うのか？（問）</li> <li>・子ども達に喜んでもらいたくてパンプキンの衣装を 2 週間かけて作成した。</li> <li>・自分が楽しまないと相手も楽しまないと。普段はその表現ができないから衣装を見に纏うことで                      表現できる。</li> <li>・自分が尊敬したりする人の衣装を着る。有名人になり切ることができる。</li> <li>・大きな熊の衣装を着ることで子どもの楽しさを味わえた。</li> <li>・友達の反応がある衣装を着る。友達の反応を楽しむため。</li> <li>・自分が何を着るか選べること。</li> <li>・着るものを誰かに決められたら楽しいものになるか（問）</li> <li>・元々魂の祝福だったものが、いつから楽し祝日・イベントになったのか気になる（問）</li> <li>・怖い側面もある。例）韓国の事件について。負の側面もある。楽しいものだからコントロールを失っ                      て悪い側面を生み出しているのか気になる。（問）</li> <li>・どうして人を楽しめるコスチュームだけではなく、人を怖がらせるコスチュームを着るのだろうか                      （問）</li> </ul>		

・根本は死とか死んだ人のリスペクトを示すだったものが、アメリカに渡りパーティー的な側面になった。何かを祝っているが具体的に何か特定なものを祝っているわけではなく祝日を楽しく過ごすことになっている。

- ・楽しい時間を利用して悪用する人間がいることを仮定して良いか？（問）
- ・これまでの文脈はハロウィーンの衣装についてだったが、学校の制服をコスチュームと呼ぶことができるのではないか？例えば、制服は何か表現を可能にするものになり得るか？アメリカの学校でスカートを短くすることに對し指導が入ること。
- ・制服等決められたものを着ることは何か怖さ恐怖が伴っているのか、影響はあるか？
- ・ハロウィーンで悪いことが起こるのでなくすることはできるか（問）？
- ・イベントがなくなることより精神が失われていると考えるべきではないか。

## 6.各自の感想

参加者全員で今回の問いについて感想を述べた。

私にとって印象的だったこと、私が学んだこと

約 40 分間の p4c で 20 名の生徒等（教職員含む）の発言があった。その中で 7 回問いが生まれ内容が変化しているところを確認できた。高校生は様々な視点から自分の考えを伝えたり、新たな疑問を投げかけていた。また、通訳のレスポンスが早く話の内容が分かりやすくリアルに話の流れをつかむことができたことにより自分自身考えを深めることができた。

・担任の先生は、いつも授業の最後は質問で終わるようにしているとのことであった。何か結論を出して終わるのではなく、次なる問いを各自が持って問い続けることを大事にしていると感じた。（板垣）

・異学年の生徒たちが参加する授業。多様な子どもたちが参加して日本語や日本文化について学んでいた。教室には若林小学校との交流の記録が掲示してあり、p4c を通じた国際交流が脈々と続いていることが伺える。思えば p4c という対話方法で、世界の子どもたちが（通訳さえあれば）すぐに対話できるのは素晴らしいことと思う。オンラインでも p4c は実施できるので、言語や時差の問題をクリアできるならばオンライン p4c でハワイと日本の子どもたちがもっと頻繁に交流できればと思う（久保）。

・p4c の手法を使いながら日本の小学生とハワイの高校生との交流も期待できると思った。特に日本の小学校では、自分たちのことや地域、日本のことを ALT に紹介するという場の設定が多いのだが、もっと多くの国の人たちと関わる機会があると子どもたちの価値観や可能性も広がると思った。（石井）

・日本であると、最初の問いに答えようと常に考えながら話合いに参加する。または、前の人の発言につなげようと思う。しかし、p4c は根本的に違うのだと感じた。今、自分が考えているところで発言していいし、問いが浮かんだらそれを出してもいい。参加の仕方にそれぞれの自由度がある。皆でそろえて考えようとしなからこそ、それぞれのペースで全員が参加できるのだと感じた。（武山）

・問いが次々と生まれてくる。問いに反応せず、次の問いが出てくる場面も多かった。問いを投げかけ、反応のなかった生徒はどんな気持ちになるのかと考えていたが、もし反応が欲しかったら、再度全体に投げかければいいのかもしいかなと思いつながりながら参加していた。（丸山）

# Report on **p4c** Practices as Exploratory Learning

22007 Hanae ITAGAKI



1

## 1. What I learned at Hawaii

- I felt that there was no end to the exploration of children.
- Being exposed to diverse ideas led to the deepening and heightening of my thinking.
- “p4c” would increase children's present mental resilience and increase their ability to survive in the future.



2

## 2. Our School is;



### Masue Primary School in Sendai (Public school)

- Number of students 168(1<sup>st</sup> - 6<sup>th</sup> grades)
- Number of class 9 (1 class per grade, including 3 special ed. classes)



【Yohei Pond】 Colored autumn, Swans come flying in Winter



【Masue Forest】 

3

## 3. Aiming from p4c practice

### On the process of Exploratory Learning

- How do we let students **have "questions" ?**
  - We want students to **deepen their "questions"** while doing research activities
- **Students get "We can do something to solve social issues" !**

【The result on National Standard Test and Questionnaire】  
 Q30. Do you ever think about what you should do to improve your community and society?  
 Yes : 12.9%      Partly Yes : 32.3%  
 Partly No : **29.0%**      No : **25.8%**

### 【Asked 5<sup>th</sup> classroom teacher before learning】

-In daily classes, there are **many comments by boys**, and it is becoming a situation where **girls refrain from speaking**.  
 -Fear of making mistakes limits the number of children who raise their hands.

We need,

→ **Creating a class where students can speak up with peace of mind**

“ **Attractive PR for Masue Forest** ” as the period for integrated studies, 5<sup>th</sup> gr. 

4

4

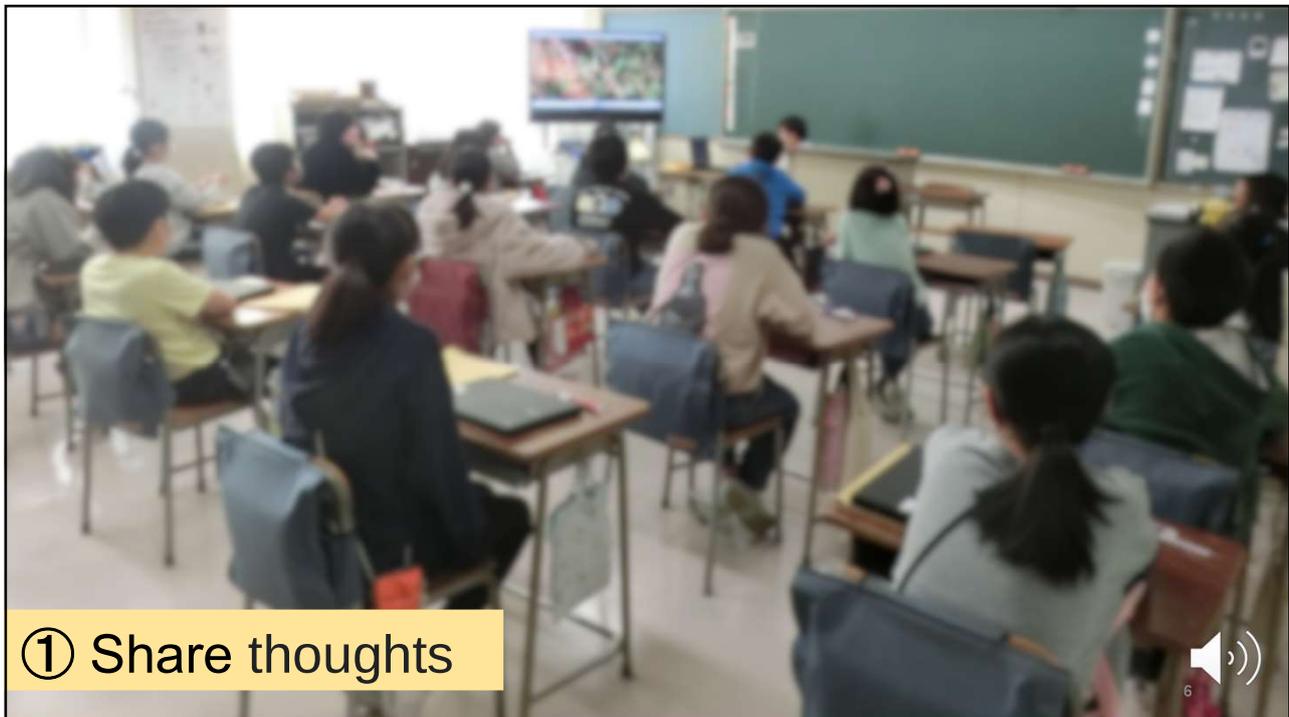
## 4. Outline of the practice

- Date 25<sup>th</sup> November (Fri) at No.6 (14:15-15:20)
- Students 5<sup>th</sup> grade ,21
- Teacher 5<sup>th</sup> classroom teacher (middle age as teacher career)
- Participant 1 Chief of Research, 2 younger teachers (novice, three years experiment) and I
- Contents
  - 【previous lesson】 Enter Masue Forest and take a walk
  - 【today】
    - ① Share thoughts on walk
    - ② Talk about what you want to research about Masue Forest and how you want to disseminate what you have researched, and deepen your own questions.



5

5



6

6

T How was it compared to Masue Forest in summer?  
 C There were bamboo leaves and fallen leaves, and it was difficult to walk.  
 C The wooden pole around which the rope was wrapped was wobbly.  
 T **Why** were some areas roped off?  
 C It is a **sign of danger from there**.  
 C **For protecting plants.**  
 C There were also signboards.  
 T The board was dirty. Yumi kindly cleaned it up at that time by her hands. It said fir tree, but was there a fir tree?  
 C No, I guess it put wrong .  
 T There was a tree that was cut here, but what did you cut it **for**?  
 C For a bonfire.  
 C For playing, maybe forest playground. It was able to enter freely from the back.  
 C **Somebody was cutting wood.Mowing ?**  
 T Where does that person work? Volunteer?  
 C . . . .  
 T I wonder **what he had in mind.**  
 Anyway, **someone said it was fun here.**

**Focus on problems of the forest**

**aware of “for what, who, and with what kind of thoughts”**

**Share familiarity of the forest**

7

## ②What do you want to research?



8

- T We got many thoughts on present Masue Foreset.  
So, What do you want to find out it?
- C I want to see the person supports the forest.
- C I want to check the history. Because I don't know it.
- C Me,too.I want to find the way of use in past.
- C I want to know why the forest was formatted. I saw a secret base. We can go there with fun.
- C I want to watch the living things because I didn't see them at all.
- C Me,too! I want to look for them.
- C I want to go to various places in the forest and look for.
- C What is the Masue forest ? I want to know how to use it.
- C I want to inquire the person who supports Masue.I saw the man who was cutting trees. I wonder why. Are there anyone else who protect the woods?
- C I saw the man cutting trees. I want to know the history of forest.

Interest in history and the future



9



③ How to express what we researched



10

- T You got many great ideas. How do we tell them ?
- C Maps. I saw a old map on entrance of the forest. It should be renewed.
- C Brochures.
- C How about quiz? It seems to fun to hear.
- T You **are aware of whom we want to tell.** To Whom ?
- C To lower grade students. 。
- C I want to give a tour to person who do not know Masue Forest well.
- C I want to make a video to introduce of the forest.
- C I want to put some ornaments using materials from the forest , with felling familiar.
- C I agree maps and signboards with the message, try to find living things.
- C I prefer quiz. It looks nice for lower grade students .They can understand quickly.
- C How about a stamp rally. It is able to tell with fun.
- C Forest ornaments sound good. How about setting the corner place?

**The feeling of telling was expanded with being clear to whom to tell.**



11

11

## 5. Reflections

### 【5<sup>th</sup> grade classroom teacher】

- Overcoming the gender gap, various children's thoughts came out
- It is good system. Only a student with community ball can speak. Everyone had a chance to say thoughts.
- Child A shows the growth
  - Child A raised his hand, but the community ball did not come.
  - Even when things didn't go his way, he never complained.
  - The next time the ball came, he spoke properly.
- It was important to listen to each other and hear the other person's voice.
- It is possible to be applied to moral education → So we Implemented in February



12

### 【Younger teacher】

- My class tends to become a teacher vs. children. Only a few students speak. Both active and non-active of 5th grade students speak with own clear reason today.
- In my class, students sometimes are indifferent to what classmate thinks. Some students have trouble keeping focused. It would be difficult to listen to the opinion of other students who has a community ball.



13

13

## 6. Transformation of students

[Method] Google form questionnaire

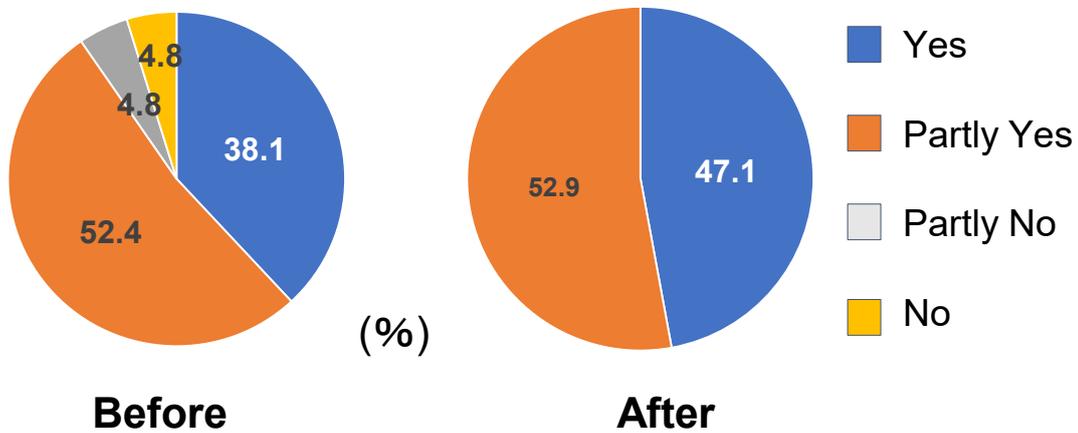
[Date] 25<sup>th</sup> Nov., 2021 (Before p4c practice)  
7<sup>th</sup> Feb., 2022 (After p4c practice)

[Resposn] 21( all 5<sup>th</sup> grade students)



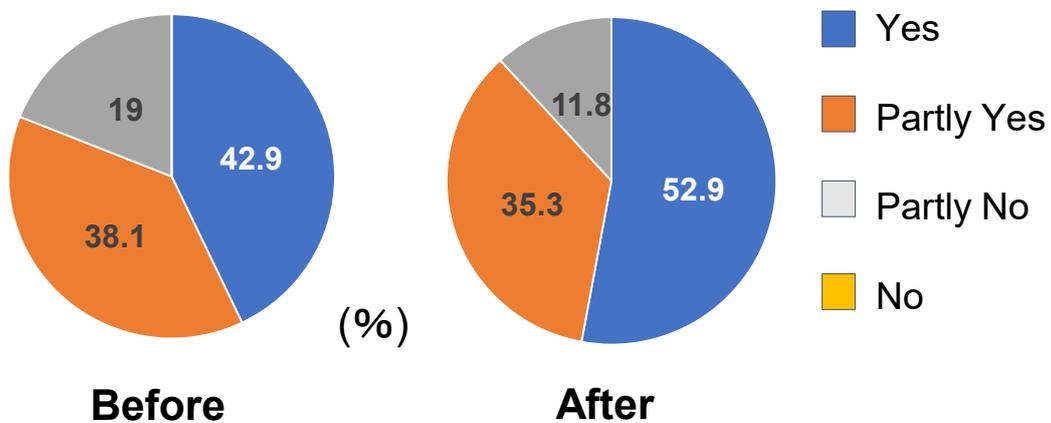
14

① Can you express your opinion freely in a safe and secure atmosphere during discussion ?



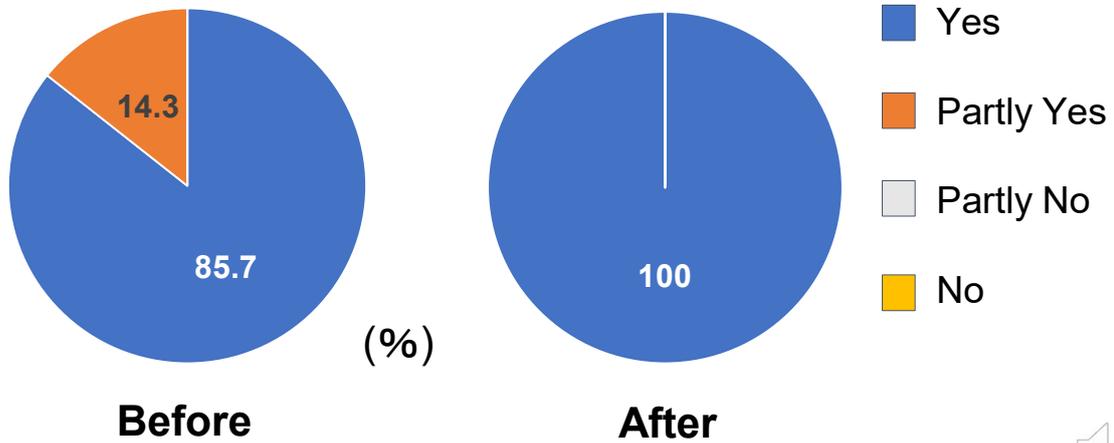
15

② In discussion activities, do you understand and accept what your friends think about the same points and different points, and also tell your thoughts ?



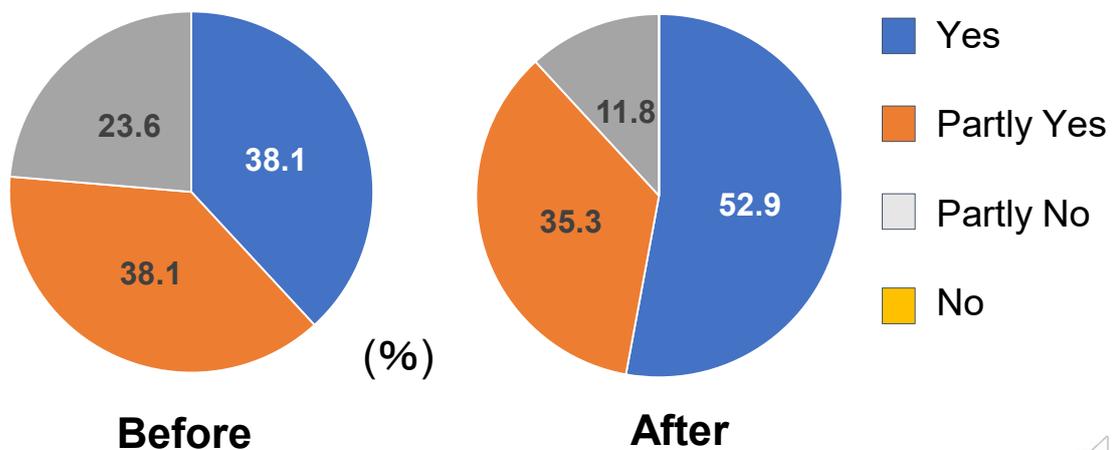
16

③ In discussion activities, are you able to listen to your friends' opinions until the end ?



17

④ Do you find it fun to think about opinions that differ from your own?



18

## 7. Conclusioton

- Through the exchange of ideas through p4c, the children's desire to learn and their awareness of the subject increased.
- Listening to friends and realizing the joy of thinking is essential for improving children's thinking ability.
- The possibility of effects will increase if teachers understand the actual situation of children and clarify the purpose of p4c utilization.



19

## **Thank you for great opportunity of in-service in Hawaii and practice in Sendai**

In Hawaii, I saw children expressing their thoughts with a community ball in their hands and listening intently. It helped me to share the usefulness of p4c to colleagues at my school.



20

# P4c classroom practices at Onoda Elementary School

First time :November 21st,2022(Mon)  
Second time : November 25th, 2022 (Fri)

Keiko Ishii



1

Introduction

About class

P4c Class

Transformations



What I learned in Hawaii

- Heart (Soul)
- Listening
- Mindfulness



2

## Koichiro TAKEYAMA, E.S. Teacher

### Safety & Children who come up with questions



The most impressive thing in p4c Hawaii is: Children come up with questions.

In Hawaii, children asked new questions one after another in the p4c dialogue. Also in the reflection, the teacher asked children what new questions had arisen in your mind.

In Japan, children search for answers. In reflection, the teacher asks the children what they have learned.

I felt that in Hawaii, creating questions is more important than answering. And children can respond to any question that comes up in the dialogue. Everyone can participate because they can respond to any question.

I was impressed that the freedom to respond is also a safety of p4c.

1

## P4C 2<sup>nd</sup> Grade in "S" E.S.

Date : Jan. 23 (Mon.), Jan. 25 (Wed.)

Facilitator : Koichiro TAKEYAMA

Homeroom Teacher : Female in her 20s



Day  
1

- Survey **Before** p4c
- Self-introduction
- Introduction of p4c Rules
- Speed Ball
- What If Game
- Vote Two Questions from the Teacher
- Reflection

Day  
2

- Check the p4c rules
- Presentation of Questions by Students
- Vote
- p4c Dialogue
- Reflection
- Survey **After** p4c

2

## Day 1 First meeting with children

Takeyama wanted to know the children's names.



Takeyama chose his elementary school's 2nd grade class to implement p4c, because he had the least interaction with the homeroom teacher and the children in that class. He wanted to see how the class would transform.

Day 1, he met 34 children in 2<sup>nd</sup>. grade.

He wanted to know the children's names, so he made them write nameplates.

It took a lot of time for the 2nd graders just to write their names.

3

## Day 1 Introduction

Speed ball with Calling the Name



### ✓ Speed Ball

The community ball flew across the gender gap. Every time the Child threw the ball, there was laughter, and the classroom was filled with a happy atmosphere.

### ✓ Introduction of the p4c rules

It was difficult to the 2<sup>nd</sup>. graders to follow the rule that only a person who has the community ball.

### ✓ What If Game

- 1) What if the chicken would be 2meter toll?
- 2) If you could go to the past or future, which would you go?
  - I want to go to the past and see the dinosaurs.
  - I want to go to the future and learn division.
  - If I could go to the future, I would like to become a scientist and invent various robots.
  - If I could go to the future, I would like to know if I am married.

4



## Day 2 Children show their own questions.

### Repeating the Rules and Vote

Day 2, it was a heavy snow. Children showed their own questions and voted after repeating the p4c rules.



7

## Day 2 Two Questions were chosen

### Q.1 Why was Japan created?

- ✓ Takeyama saw a lot of children thinking more carefully than last time.
- ✓ Children's thoughts spread in different directions.
- ✓ Difficult language usage such as nutrition and meteorites was seen.
- ✓ Even as a second grader, They were able to articulate the reason.

#### ✓ Episode

- When the girl started to get frustrated because the ball didn't come around again this time, there was a child who felt the situation and quickly passed the ball.

### Q.2 Why should you not lie?

- ✓ Many children said "for example..." and "if..."
- ✓ A strong sense of justice was evident.

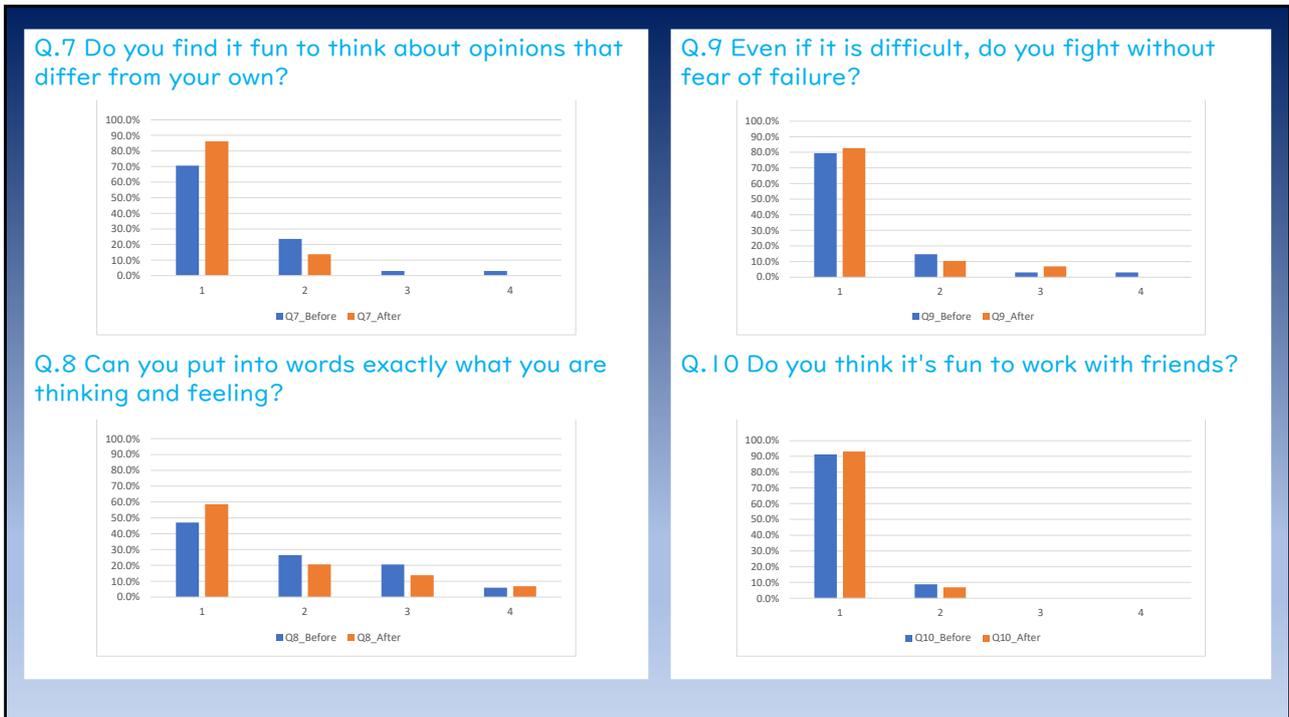


8





11



12

## Interpretation of Results

- ✓ Positive responses increased for seven items except questions 4, 5, and 6.
- ✓ This class has high scores on Welcome to Different Opinions (Q.7), Challenge (Q.9), and Agreeableness (Q.10) before p4c. Therefore, young homeroom teachers are making good classrooms. p4c can further encourage such teachers.
- ✓ Even second graders can understand slightly difficult questions, look back on themselves, and self-evaluate. This is a great ability.

## Conclusion

- ✓ p4c was also effective in this class.
- ✓ In other words, p4c is amazing!



Introduction

About class

P4c Class

Transformations



School emblem

- friendship and cooperation
- The three fishes
  - ⇒ moral, intellectual, and physical education
  - ⇒ youth and resilience



Onoda Elementary School

3

Introduction

About class

P4c Class

Transformations

Challenge: Listen to the end of the story.



4th grade

4

Introduction

About class

P4c Class

Transformations

## First lesson: community ball making and self-introductions



First, get a feel for the classroom

Next, check the rules

"only the person holding the ball  
can speak."

ボールをもっている

人だけが話せる

(ほかの人は考えながらきく)



5

Introduction

About class

P4c Class

Transformations

## First lesson: community ball making and self-introductions

I like the character  
"Chi-Kawa".

My favorite is Pokemon.



After the first class  
Students wanting to create a second  
community ball  
'I want to talk more.' 'I want to listen more.'



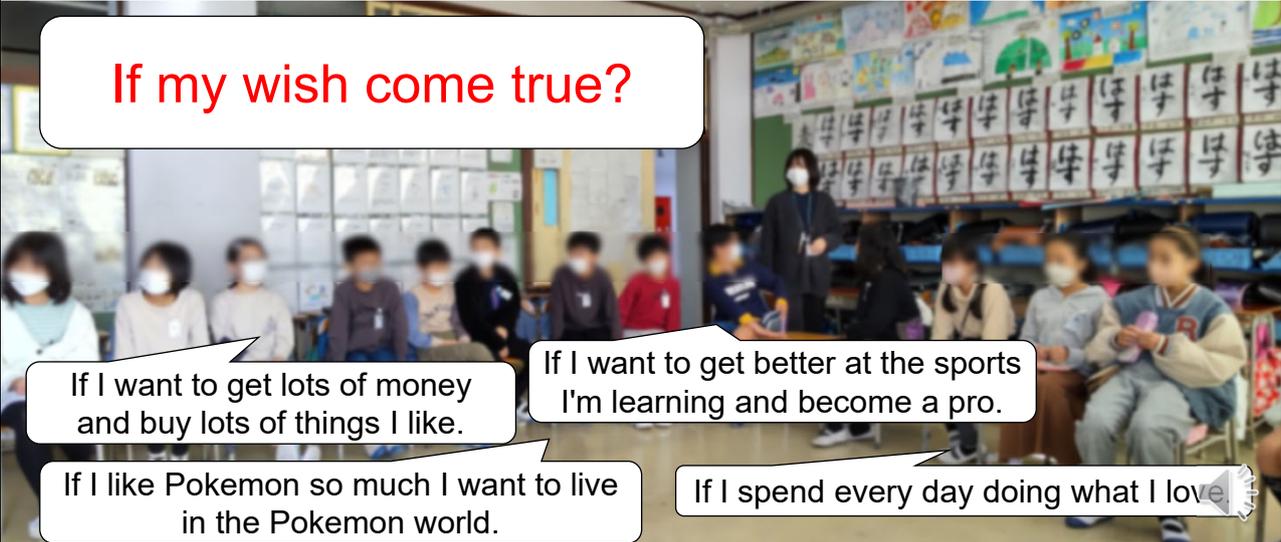
6

Introduction > About class > P4c Class > Transformations

## Second lesson

Step1: Question Step2: Voting Step3: Dialogue Step4: Reflection

**If my wish come true?**



If I want to get lots of money and buy lots of things I like.

If I want to get better at the sports I'm learning and become a pro.

If I like Pokemon so much I want to live in the Pokemon world.

If I spend every day doing what I love.

7

Introduction > About class > P4c Class > Transformations

## Second lesson

Step1: Question Step2: Voting Step3: Dialogue Step4: Reflection

**If my wish come true?**

The one student raised her hand



If my wish came true, I think I would lose all the fun.

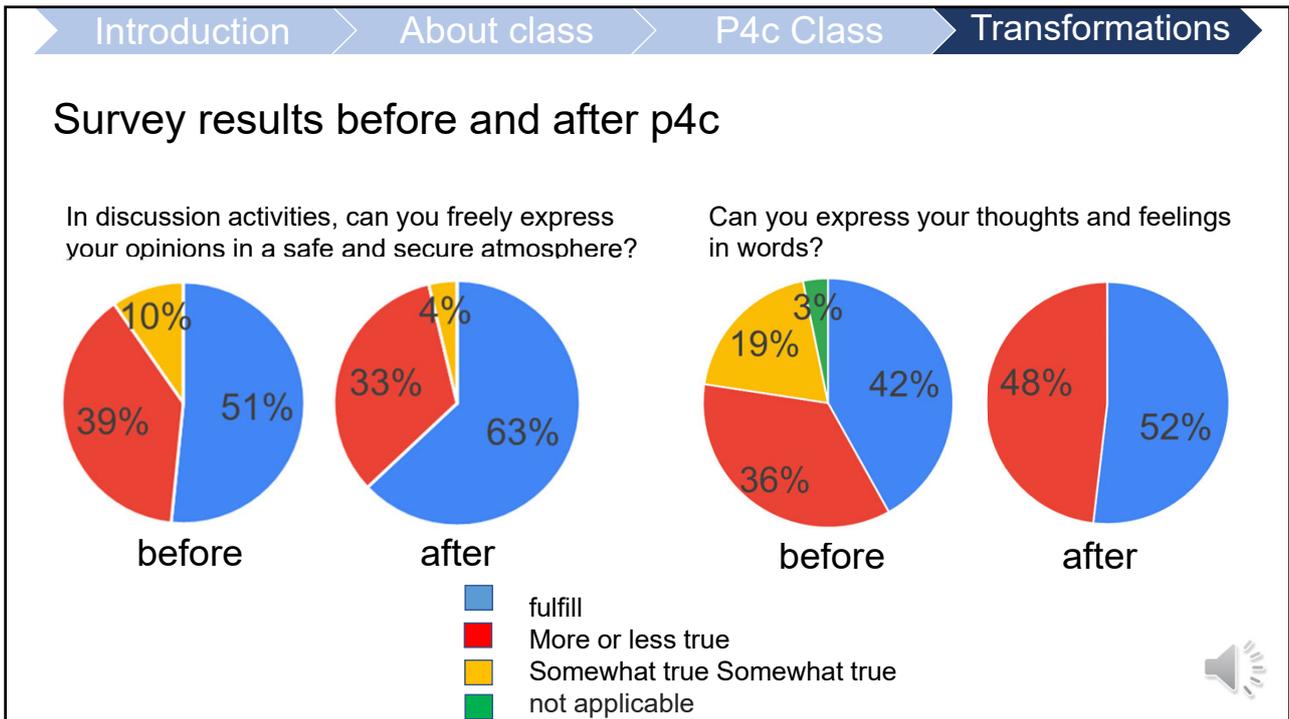


I never stop having fun. If I can make my wishes come true, I can think of all the fun things I want to do.



Students around her also raised their hands

8



9

Introduction > About class > P4c Class > Transformations

### Impressions after class



Homeroom Teacher

The students were able to **listen** a little bit. The children seemed to **enjoy discussing** their opinions in **free atmosphere**. I hope to incorporate this activity into other classes as well.

I could see that the students were **deepening** what they were saying along the way. Clearly, the second time around, they became more aware of "**listening**".



Head Teacher



Students

I would like to discuss this topic with everyone again. I think it would be good for social studies and moral education, and for **sharing ideas**.

10



11



1

Impressions of the visit

- p4c is a "learning how to learn".
- The mindset of p4c was also well given by teachers according to the children's stages of development.
- The community of inquiry is the foundation of learning.



A small speaker icon is located in the bottom right corner of the slide.

2

## Possibility of p4c in the field of sports education

### Introduction

I thought that p4c training in Hawaii could be fully applied to sports.

I have a challenging idea.

In the area of the high school where I work, there is a river and a boathouse that is the only one place for kayaking safely in Miyagi prefecture.

We are planning to establish a kayak club in May 2023.

The target group of the club is elementary school students.

In the future, we would like to target kindergarten, elementary, and junior high school students.

Therefore, I would like to build a team through p4c.

We believe that p4c contributes to our team building.



3

## Effects of p4c in sports

- Building the good inteam relationships
- Building the good relationships between coaches and players
- Making rules of the teams
- Improvement of communication skills
- A broader perspective
- Athletes can also use p4c to decide on their own practice programs.
- Dialogues of p4c may improve kayaking skills



4

Thank you very much Dr. J., Dr. Ben, p4c children and teachers.



公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター  
教職員交流を通じた国際比較研究事業

子どもの哲学(p4c)  
ハワイ・みやぎのデータサイエンスによる発展的プロジェクト報告書  
p4c スクールリーダー研修チーム運営委員会

市瀬 智紀  
田端 健人  
本図 愛実